平成23年 5月24日開催
第135回 評議員会承認
第437回 理 事 会可決

平成 22 年度事業報告の概要

福岡歯科学園理事長　田中健藏

本学の第一次中期構想期間が終了する 22 年度においては、本学の基本理念･目的の実現および更なる発展を目指し、「歯科医学から口腔医学へ」をスローガンに教育・研究・社会貢献活動を展開しました。また、「口腔医学の確立」に向けて、法人･教学のトップが先頭となって関係各方面の理解と支援の要請等をより積極的に行いました。

１.「口腔医学の学問体系の確立」について

戦略的大学連携支援事業の代表校として、理事長･学長等を中心に国公私立歯科大学･歯学部、歯科医師会･医師会等に理解と協力を得るために意見交換を積極的に行いました。今日の歯科医学の教育内容は口腔医療という患者ニーズに対応したものであることを学内外に明示するため、さらには、歯学･歯科医療に対する社会的評価の一層の向上に向けて、大学･学部等の名称変更について文科省・厚労省と事前相談を行いました。その実現に向けては、今後とも関連国公私立大学および関係諸団体との連携強化を図ることが重要です。

２．教育の改善・充実等について

○　大学教育改革ＧＰ（文科省から特色･個性ある優れた取り組みとして選定･支援を受ける事業）として、大学では①戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学･歯学教育体制の再考」、②大学教育･学生支援推進事業学生支援推進プログラム「臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化」を、短大では③社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上支援をスキルアップする実践教育」、④大学教育・学生支援推進事業就職支援推進プログラム「超高齢社会の就業力向上につなげる医療･福祉系学生の就職支援」、⑤大学生の就業力育成支援事業「短期大学教育力活用による学際的就業力育成」を推進しました。

○　アドミッション･ポリシーに合致する優れた資質・能力･意欲を備えた学生の確保のため、高校訪問等の募集活動を強力に展開するとともに、入学者選抜試験の方法や内容の改善に努めました。

○　「第 104 回歯科医師国家試験」は、既卒者を含めた総合合格率が 67.2%で 17 私立歯科大学中 7 位、「第 20 回歯科衛生士国家試験」は、前年に引き続き合格率 100%でした。

○　学習環境改善のため、排気装置付解剖実習台設置、e-learning システム導入、教室や学生ホールに無線 LAN 受信装置設置、自学自習スペースの整備･拡充、学生食堂のリニューアル、学務課のオープン化（全面ガラス張り、自動ドア設置）等を行いました。

３．研究の活性化について

○　先端科学研究センターが推進する研究プロジェクト「疾患の抑制におけるゲノム安定

性と環境ストレスの制御」に対する文科省の中間評価において、「レベルの高い特徴ある研究成果を挙げ続けている。」との高い評価を得ました。
○　平成 22 年度の戦略的研究基盤形成支援事業に採択の研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」を推進するために、「再生医学研究センター」を 9 月に新設しました。
○　科学研究費補助金等の外部資金を積極的に活用して、社会ニーズに対応した研究を推進するとともに、専任教員等の研究テーマの進捗状況について指導助言を行いました。

４．社会連携･国際交流について
○　「医科歯科総合病院」では、医療人材の養成や高度医療の提供という大学病院の使命達成のため、卒前の臨床実習や卒後の歯科医師臨床研修の充実を図りました。今後、新しい時代の要請に応えた医療活動を展開し、口腔領域および全身の健康保持の医療を目指す歯科医師やコ･スタッフ等に最新の口腔医学情報等を積極的に提供するため、国内外からの利便性の高い戦略的口腔医療センターの開設準備について検討を行いました。
○　「国際交流」では、初の口腔医学国際シンポジウムの開催、上海交通大学や東釜山大学等との学生の相互訪問交流の実施および教員の海外研修派遣の促進等に努めました。

５．組織運営の改善・効率化等について
○　平成 22 年度事業の実施においては、必要性・緊急性・費用対効果を十分吟味した予算執行に努めるとともに、学納金の引き下げを踏まえ、収支バランスを維持するため、科研費等の競争的資金の獲得、安全かつ効率的な資産運用、役職員の給与･退職金等の適正化による人件費の抑制等に努めました。また、契約事務・給与事務等の定型業務の効率化を図るとともに、財務課を３係から２係へ再編合理化を行いました。
○　大学改革の推進および教育情報等の積極的公開のため、大学は平成 20、21 年度の自己点検・評価報告書を作成・公表、短大は平成 19、20、21 年度の同報告書を作成･公表するとともに、ホームページの充実等により学園情報等を積極的に発信しました。
○　医療・保健・福祉分野の社会貢献を使命とする総合学園として、その名称を「福岡学園」と改めることを理事会・評議員会で決定し、文科省に寄附行為変更の認可申請を行いました。

おわりに、本学をめぐる経営環境が大変厳しい状況の中で、多岐にわたる業務遂行の責務を担っている役員･教職員の皆様方のご尽力・ご協力に対し、あらためて感謝を申し上げます。なお、東日本大震災という国難のとき、本学は創立 39 年という若い学園として 10 年後、50 年後を見据え、また、福岡という歴史と文化に満ちた環境の中、教職員・学生・同窓生等との強い絆で、時代の要請に応える口腔医療･保健･福祉の分野におけるリーダーを輩出し、大学の社会的使命を達成するため邁進する所存であります。

平成23年 5月24日開催
第135回 評議員会承認
第437回 理 事 会可決

学校法人福岡歯科学園　平成２２年度事業報告書

Ⅰ　法人の概要

１　法人の目的

学校法人福岡歯科学園は、昭和 48 年に西日本唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系確立と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」及び全国に先駆けて高齢者福祉のための「介護老人保健施設」を設置し、さらに、全国初となる「口腔保健学士」認定専攻科を有する「福岡医療短期大学(歯科衛生学科・保健福祉学科)」を併設している。このように、今日まで一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士の養成及び教育・研究者を育成することを目的とし、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

２　設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況は表１のとおり。

表１　設置する学校等　　(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学　校　名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長　北村憲司)	歯学部歯学科	昭和４８年	6	120	720	587
	大学院歯学研究科	昭和６０年	4	18	72	41
福岡医療短期大学 (学長　栢　豪洋)	歯科衛生学科	平成　9年	3	80	240	244
	保健福祉学科	平成１２年	2	40	80	48
	計			120	320	292
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成１１年	1	20	20	10

施　設　名	区　分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長　松葉健一)	入　所	平成 14 年	85	83.0	30,283
	通　所	平成 14 年	40	18.3	5,373

３　出願者及び入学者等の状況は表２のとおり。

表２　出願者及び入学者等の状況

学　校　名	学部学科等名	平成 22 年度入学者				平成 23 年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	歯学部歯学科	166	158	156	81	179	171	152	92
	大学院歯学研究科	18	17	17	16	15	15	15	15
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	101	100	100	93	86	86	86	81
	保健福祉学科	49	48	34	32	26	26	26	25
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	10	10	10	10	13	13	13	13

４　教職員数は表３、表４のとおり。

表３　教　員　数　　（平成 22 年 5 月 1 日現在）

	教授等	准教授	講師	助教	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
大　学	33	20	29	60	142	7	2	14	2	74	241
短　大	5	11	2	2	20	－	－	－	－	27	47
老　健	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	1
合　計	39	31	31	62	163	7	2	14	2	101	289

表４　職　員　数　　（平成 22 年 5 月 1 日現在）

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員	介護職員等	医員	合計
大　学	45	8	5	28	－	－	－	86
短　大	3	－	－	－	－	－	－	3
病　院	8	－	－	4	85	－	41	138
老　健	1	－	－	2	18	40	－	61
合　計	57	8	5	34	103	40	41	288

※非常勤職員を含む。

５　役員・評議員・役職教職員は表５、表６、表７のとおり。（平成 22 年 5 月 1 日現在）

表５　理事・監事・顧問 15 名

理 事 長	田　中　健　藏
常務理事	青　野　一　哉
常務理事	本　田　武　司
理　　事	北　村　憲　司
理　　事	栢　　豪　洋
理　　事	荒　川　規矩男
理　　事	宮　口　　嚴
理　　事	厚　谷　彰　雄
理　　事	松　浦　正　朗
理　　事	田　代　英　雄
理　　事	大　石　秀　雄
理　　事	秋　山　治　夫
監　　事	安　倍　　徹
監　　事	長　友　泰　明
顧　　問	岩　﨑　光太郎

表７　役職教職員

大 学 長	北　村　憲　司
短大学長	栢　　豪　洋
医科歯科総合病院長	松　浦　正　朗
事務局長	厚　谷　彰　雄
学生部長	岡　部　幸　司
情報図書館長	中　島　與志行
口腔・歯学部門長	小　島　　寛
全身管理・医歯学部門長	湯　浅　賢　治
社会医歯学部門長	埴　岡　　隆
基礎医歯学部門長	谷　口　邦　久

表６　評議員 25 名

評 議 員	田　中　健　藏
評 議 員	北　村　憲　司
評 議 員	栢　　豪　洋
評 議 員	松　浦　正　朗
評 議 員	厚　谷　彰　雄
評 議 員	香　月　俊　博
評 議 員	本　山　久美子
評 議 員	石　橋　慶　憲
評 議 員	青　野　一　哉
評 議 員	本　田　武　司
評 議 員	松　葉　健　一
評 議 員	中　山　宏　明
評 議 員	中　島　與志行
評 議 員	荒　川　規矩男
評 議 員	田　代　英　雄
評 議 員	大　石　秀　雄
評 議 員	秋　山　治　夫
評 議 員	染　矢　廣　美
評 議 員	山　本　達　雄
評 議 員	朔　　啓二郎
評 議 員	前　原　喜　彦
評 議 員	宮　口　　嚴
評 議 員	武　井　俊　哉
評 議 員	吉　田　公　典
評 議 員	髙　橋　　裕

Ⅱ．事業の概要

１．「口腔医学の学問体系の確立」について

今日の医歯学の進歩、社会医療環境の変化を踏まえ、さらに歯科医療の逼塞状態の改善等のためにも、「歯学」から「口腔医学」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療に対する社会の理解、医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士など医療人の意識向上を図る上で適切であるとの考えに立って、平成 22 年度も引き続き田中理事長、北村大学長他、役職教職員等が国公私立歯科大学・歯学部及び歯科医師会等に理解と協力を得るために意見交換を行うとともに、文部科学省、厚生労働省を訪問して理解と支援を要請した。また、「口腔医学を見据えた歯科医学教育の再考」をテーマとして口腔医学シンポジウムの開催（平成 22 年 7 月・岩手）及び「Grand Design for Future Dentistry」をテーマとして口腔医学国際シンポジウムの開催（平成 22 年 12 月・福岡）など、広く社会に対しアピールを行った。

この他、大学、学部等の名称について、口腔医学の確立に関する本学の取組みを名実ともに明らかにするとともに、歯学教育や歯科医療の実体に即した名称とするため、平成 22 年 8 月 20 日及び 10 月 13 日開催の大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会に、名称変更について事前相談等を行った。なお、これに関して文部科学省から、医学界や歯学界でのコンセンサスを得られていない等の理由により現段階では本学が予定している名称変更は適当ではない旨の結果が伝達された。

２．教育の改善・充実等について

１）文部科学省・大学教育改革ＧＰの推進

（１）福岡歯科大学

①「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」を継続実施

平成 20 年度に採択された標記プログラム『口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考』（事業期間は平成 20 年 11 月 20 日から平成 22 年度まで）では、本学を代表校とする 8 大学（九州歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、福岡歯科大学）で医学・歯学一体教育による新しい医療人の育成及び教育体制の創設に共同して取り組んでいる。平成 22 年度は連携 8 大学で作成したシラバスに基づき、連携大学間でＴＶ配信授業「医歯学連携演習」を開講した。この授業科目は毎回、医科と歯科が協同で授業を行うもので、本学教員に加え、鶴見大学、九州歯科大学及び福岡大学医学部の教員が講師として参画した。加えて、一般医学授業科目 6 科目（産科婦人科、小児科、皮膚科、精神医学・心身医学、眼科及び耳鼻咽喉科）のモデルシラバスを完成させるとともに、基礎科目についても組織学を作成し、病理学を現在作成中である。また、口腔医学コンテンツの共有化を図るため e-learning システムを導入したほか、新規に連携大学間で教職員の短期研修派遣を実施し、さらに口腔医学国際シンポジウムを開催した。この他、昨年度に引き続き、ＦＤ・ＳＤ研修会、海外の大学視察（南カリフォルニア大学、ケース・ウェスタン・リザーブ大学、ボストン大学）とその報告会及びシンポジウム等を開催した。

②「大学教育・学生支援推進事業（学生支援推進プログラム）」を継続実施

平成 21 年度に採択された標記プログラム『臨地体験と就業情報通信システム構築による歯学生の就業支援強化』（事業期間は平成 21 年 8 月 31 日から平成 23 年度まで）の事業

は、歯科医師としての就業先情報を収集し、きめ細やかな情報を提供することを主な目的としている。平成 22 年度は、昨年度に続き今年度も第 5 学年 98 名(病気による不参加者 1 名)を 14 施設に派遣し、13 名の歯科医師によるキャリアパス講演会を開催した。また、臨地体験報告会及び病院勤務歯科医師キャリアをテーマとした歯科医師キャリア・教育フォーラムを開催し、歯科医師キャリア形成と口腔医学の実践について討論した。就業情報通信システムに、本年度は学外からのアクセス機能を追加し、求人情報・施設取材情報・学生体験レポート等 646 件の施設情報を検索・閲覧できるよう改善を図った。さらに、後期にはキャリアカウンセラーを配置し、卒業直後の勤務医就業情報の収集及び進路相談を実施し、勤務医就業に係る事例を集積する等、勤務医を経て歯科医院開業に至るシームレスな就業支援の環境を拡充した。

（２）福岡医療短期大学

①「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」を継続実施

教育研究資源を活用した、社会人の再就職やキャリアアップ等に資する取組として、平成 20 年度に採択された標記プログラム『介護予防新時代における歯科衛生士の口腔機能向上支援をスキルアップする実践教育』(委託期間は平成 20 年 9 月 1 日から 22 年度まで)を昨年度に引き続き実施した。平成 22 年 5 月より 12 月にかけて、“口腔介護と口腔機能向上支援”の修得を図る教育プログラム（口腔機能向上スキルアップ講座）を開講し、全課程を修了した 41 名に対して、修了証ならびに単位認定証を授与した。

②「大学教育・学生支援推進事業（就職支援推進プログラム)」を継続実施

平成 21 年度に採択された標記プログラム『超高齢社会の就業力向上につなげる医療・福祉系学生の就職支援』(事業期間は平成 22 年 2 月 15 日から平成 22 年度まで）においては、ｱ)就職相談専門員２名による学生の適正や能力に対応した就職支援、ｲ)外部の有識者や卒業生アドバイザー等と連携したセミナー・ガイダンスや評価委員会開催等を行った。

③「大学生の就業力育成支援事業」（文部科学省）に採択

標記プログラムに『短期大学教育力活用による学際的就業力育成』(事業期間は平成 22 年 11 月 30 日から平成 26 年度まで）が採択された。事業内容は、短期大学等の有する実践的な教育力を活用することにより、大学生にとって重要となる卒業後に社会的に活躍し職業的に自立できるための多面的な「就業力」育成支援である。今年度は、医療・福祉系教育機関のリーディングカレッジ（Leading college）となるべく、平成 23 年度からの教育改革を前提とした取組のための準備を推し進めた。

２）歯学部の教育

（１）教育方法の改善等

①「低年次教育」の見直し

本学の特色あるカリキュラムである態度教育（主として第 1 学年を対象）の中で、低年次教育、少人数教育及び英語教育について、学務委員会において作業グループを設置し、検証した結果、英会話教育について、平成 22 年度から能力別に 3 グループに分け実施した。また、平成 23 年度からは第 1 学年前期に「基礎理科」を開講しリメディアル教育の強化を図るとともに、小グループ別学習を統合して「医・口腔医学概論」として再編することにより態度教育の充実を図ることとした。なお、昨年同様に第 1 学年は新入生研修時に、第 6 学年は後期開始前にそれぞれ禅寺での座禅を実施した。

② 出欠確認の徹底

授業の出欠確認については、過去の事例を検証し、担当教員と学生相互で確認することを学期始めのオリエンテーション時に文書で説明するとともに、2 週間ごとに掲示する欠席状況についても学生ホールに加え、各学年の教室にも掲示した。

3）大学院の教育

課程修了は、第 4 学年 8 名と第 3 学年 1 名の計 9 名であり、3 年での早期修了は昨年度に続き 2 人目である。論文博士は 2 名を認定した。また、九州大学大学院歯学研究科・鶴見大学歯学研究科との間の研究指導協定に基づき学生 2 名を派遣した。この他、奨学生制度において、一般奨学生 10 名、特別奨学生 9 名、リサーチアシスタント 7 名、ティーチングアシスタント 16 名を選考した。なお、学生共済会大学院一般奨学金貸与については申請が無かった。

平成 23 年度からは学部 3 年後期に、従来の「基礎ＥＢＭ演習」を改編し新たに「基礎研究演習」を開講し、基礎講座の研究活動を体験させ研究者マインドを醸成させることとした。

4）医療短大の教育

（1）教育方法の改善等

① 実習重視型教育

歯科衛生学科は、併設の介護施設サンシャインシティ並びにサンシャインプラザにおいて口腔介護臨地実習を、保健福祉学科は、両施設において介護実習を継続して実施した。

② 学生の授業評価

講義を担当した教員全員（非常勤講師を含む）について、学生対象の当該授業評価アンケートを前・後期の授業終了後に実施し、その集計結果を、レーダーチャートの形式で担当教員にフィードバックし、次年度以降の当該担当科目等の改善と教育改革の資料として活用した。

③ 資格取得支援教育

歯科衛生学科 2 学年 65 名が、訪問介護員（ホームヘルパー）2 級を平成 23 年 5 月に資格取得予定である。

保健福祉学科は、卒業生全員（16 名）が介護福祉士資格及び社会福祉主事任用資格を取得し、12 名がレクリエーション・インストラクター資格を取得した。

5）教員の教育能力および教育の質の向上

（1）福岡歯科大学では、組織的ＦＤに取り組んでおり、ＦＤ事業を 3 つの目的別（学生支援の充実、教員の資質向上、大学院及び研究の活性化）に実施した。特に助言教員と新任大学院指導教員に向けてのＦＤを新規の取組みとして実施した。また、今年度は、九州大学を幹事校として福岡市の 6 大学で構成する「九州地域大学教育改善ＦＤ・ＳＤネットワーク（Ｑ－ＬＩＮＫＳ）」が企画したＱ-Ｌａｂ ＣＤプロジェクトに本学から 2 名が参加したほか、戦略的大学連携支援事業の一環として、7 月に北海道医療大学及び 11 月に鶴見大学において開催されたＦＤワークショップに本学から各 2 名が参加するとともに、連携大学間で短期研修派遣を行い、昭和及び神奈川歯科大学に各 1 名を、福岡大学に 4 名を派遣する一方、神奈川歯科大学からの 2 名の派遣を受け入れた（別表 10）。

その他、ＦＤ関連事業として、多肢選択問題作成ワークショップ、シラバス作成や助言教員制度を充実させるためのワークショップ、新規採用教員教育研修会等を開催した。

（2）福岡医療短期大学では、全教員が講師を担当するＦＤ講演会（教育方法の工夫、口腔介

護教育、研究に関する報告等）を毎月 1 回実施した。また、研究活動の推進のために、短大合同抄読会を継続している。

6）学生確保

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、デイプロマ・ポリシーについては、大学・短大ともにホームページ、大学案内、入学試験要項等で公開し広く周知を図った。

平成 23 年度入試については、福岡歯科大学では入試委員会及び受験者対策ＰＴ、また学生募集担当主査を中心に高校訪問募集活動を見直し、①高校訪問前の担当教員の説明会の徹底　②高校訪問回数の増加　③高校訪問時の資料の整備を行ったほか、重点校を決め効率的な高校訪問を行った。また、入試実施方法についても、①指定校推薦制を導入　②一般入試Ａ日程とセンター試験利用入試を同一日に実施し併願制を導入　③試験場として大阪会場や東京会場を追加　④試験別定員の見直しと試験科目の簡素化等の大幅見直しを行ったが、募集定員 96 名を満たさなかったため追加募集を実施した。この結果、平成 23 年度の入学者数は最終的には 92 名となり、募集定員を 4 名下回った。

福岡医療短期大学では、短大運営会議において学生募集活動についての組織的な方策を検討するとともに、高校訪問募集活動のエリア担当者を定め、効果的に実施した。また、保健福祉学科では入学者の授業料減免制度、学生納付金の４期分納制度を制定するとともに、福岡県職業訓練制度を利用した志望学生を積極的に受け入れ 25 名の入学生を確保した。歯科衛生学科では、一般入試Ｄ日程を新たに追加するとともに、オープンキャンパスにおいて、「歯科衛生士体験」をシリーズ化して行うなど学生の確保に努めたほか、高校生対象の進学ガイダンスや出前講義など計 29 回実施した結果、81 名の入学生を確保した。

7）国家試験

（1）福岡歯科大学では、今年度も前年同様、「卒業試験小委員会」で卒業試験及び再試験問題のブラッシュアップを行った。また、卒業資格判定においても審査を厳格にし、学力が担保されていると保障できる者について卒業を認めた。その結果、今年度は 97 名が卒業を許可され第 104 回国家試験を受験し、70 名が合格した。合格率は 72.2％であり、前回の 84％から 12 ポイント減となり大幅に降下した。既卒者を含めた総合の合格率は 67.2％で 17 私立歯科大学中第 7 位であった。（私立歯科大学全国平均合格率 66.6％）

共用試験は前期末に第 5 学年 99 名が受験し、CBT 再試 4 名を含め全員が合格した。また、平成 23 年度から第 5 学年前期から臨床実習が開始されることに伴い、平成 22 年度は第 4 学年も共用試験を受験した。95 名が受験し CBT で 10 名が再試を受験した結果、3 名が不合格となり留級した。

（2）福岡医療短期大学歯科衛生学科は、歯科衛生士国家試験での 100％合格を目指して、平成 22 年度は 2 学年に対して国家試験の演習を 5 回、3 学年に対しては 15 回の演習を行うとともに、演習の成績不振者に対しては、水曜日、土曜日に補習を行うなど早期に対応を行った。その結果、第 20 回歯科衛生士国家試験では受験者 76 名全員（新卒のみ）が合格した。（全国平均合格率 96.5％）

8）修学等の支援

（1）施設・設備の整備充実

① 解剖実習室改修

解剖実習室の教育環境改善を図るため、解剖実習室改修工事を行い、ホルムアルデヒド対策として排気装置付解剖実習台を設置、併せて実習室内の視聴覚機器を整備した。

② e-learning システムの導入

福岡歯科大学では、修学環境整備として、501,601,701,801,901 及び 504 の各学年講義室 6 室、602,702,802 の実習室 3 室、411 教室、1 階学生ホール、9 階ホールに無線 LAN 受信装置を設置するとともに e-learning システムを導入して学生が自分の進度に合わせて自学自習しながら実習を進めることが出来る学習環境を実現した。

③ 自習スペースの拡充

学生サービスの向上を図るため、本館 9 階のブラウジングコーナーに面した情報センターの壁を撤去し、e-learning の利用、自学・自習、グループ学習等ができるオープンスペースとして整備した。

④ 学生食堂のリニューアル

学生や教職員へのサービス向上を図るため、食堂等管理運営委員会において学生食堂の改善についてアンケートを取るなど検討を行ってきたが、食堂委託業者の契約更新に合わせ、新規業者を選定し 11 月 1 日にリニューアルオープンした。カフェテリアスタイルで昼休み時間の混雑が解消されたほか、新たに焼き立てパンや各種弁当のデリカコーナーも新設するなど利用者のニーズを取り入れた改善を行った。

⑤ 学務課のオープン化

福岡歯科大学本館 1 階学務課事務室の学生ホールに面した壁を全面ガラス張りに改修し、入口を自動ドアにすることで学生が利用しやすい環境に整備した。

（2）福岡歯科大学父兄後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 7 月下旬から 9 月上旬にかけて 17 地区で開催された父兄後援会支部懇談会に、本学から北村学長及び役職教員が出席し、本学の現況、学生の学業成績等について説明し、父兄の協力を要請するとともに父兄からの要望も聴取した。また、5 月には父兄後援会の役員と学園理事長や本学教授等との懇談が実施され、その際、支部懇談会と併せ学生に対する就学環境の整備等についての意見交換を行った。

② 本学園理事長が、理事長を兼務する学生共済会は、3 月及び 5 月に理事会と代議員会の合同会議を開催し、本学学生共済のために実施する諸事業について審議し、年間の事業計画を決定した。また、新規事業の展開等学生に対する福祉・共済事業のあり方についても検討し、学生の就学支援の充実を図った。なお、平成 22 年度は就学共済給付金を 4 名に給付したほか、一般奨学金貸与については 32 名に貸与した。

③ 同窓会とは、毎年 5 月に開催される同窓会定時総会懇親会や定例懇談会に理事長他役員が出席し、意見交換を行い、連携を図った。また、平成 22 年 5 月 30 日には同窓生オープンキャンパス・入試説明会、7 月 4 日には同窓生入試説明会を開催し、理事長、大学長他役職教員等及び同窓会役員が出席して、参加された同窓生とその子弟らに学内施設見学や大学及び入試の概況説明を行った。

（3）多様な学生に対応した将来の進路を含めた指導の実施

福岡歯科大学では、助言教員が日々学生の指導を行っているほか、オフィスアワーにおいても修学上の問題等について個別の面談や相談を実施した。

福岡医療短期大学両学科では、成績不振学生に対する補習授業を実施するとともに、学年担任と助言教員による父兄面談及び学生指導を行った。

３．研究の活性化について

１）先端科学研究センター

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援を受けて、「疾患の抑制におけるゲノム安定性と環境ストレスの制御」の研究を平成 20 年度より 5 年間にわたって実施している。平成 22 年度はその 3 年目にあたり、研究経費 40,000 千円を重点配分して、これまでの 2 年間の研究を引き継いで計画研究と公募研究の 2 つの方式で研究を進めた。なお、計画研究の発表会は平成 22 年 12 月 22 日に、公募研究の発表会は平成 23 年 3 月 23 日に行った。その他、本課題に関する公開シンポジウムを平成 22 年 12 月 6 日に行い、本学の 4 名の研究者がそれぞれの研究成果について発表し、アメリカから招待した Samuel Wilson 博士（NIH）が特別講演を行った。計画研究発表会、公募研究発表会およびシンポジウムのプログラムを**別表 1** に示す。

また、これまでに行った研究の成果をまとめた進捗状況報告書を平成 22 年 9 月に文部科学省に提出して中間評価を受け、「地方の私学として、レベルの高い特徴ある研究成果を挙げ続けている」等の高い評価を得た。この他、4 名の外部評価委員による外部評価を平成 23 年 1 月 18 日に受け、研究成果の水準の高さとともに研究陣の充実ぶりを高く評価された。外部評価委員は大石正道（九州大学名誉教授）、高橋正行（フランス・ナント大学教授）、中山宏明（九州大学名誉教授）、平田雅人（九州大学歯学部教授）である。

２）再生医学研究センター

本学から申請した研究プロジェクト「生体内環境を調和する硬組織再建システム」が文部科学省の平成 22 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された。実施期間は平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間であり、研究費として各年度約 29,000 千円の予算措置が行われる予定である。これに伴い、本研究プロジェクト遂行のための推進母体として、本館 8 階、歯科医療工学講座研究室の一部を改装して再生医学研究センターを平成 22 年 9 月に新設した。センター長には申請時の研究代表者である松家茂樹教授（歯科医療工学講座）を 10 月 1 日付けで任命した。また、センター所属教員として平成 23 年 4 月 1 日より福島忠男教授が就任することとなり、事務職員 2 名とともにセンターの運営にあたる。平成 22 年度には、新規の研究装置および設備として in vivo マイクロＸ線ＣＴスキャナ（49,476 千円）（動物が測定対象になるのでアニマルセンターに設置）、蛍光Ｘ線分析装置（9,450 千円）、Ｘ線回折装置（7,350 千円）、リサーチ用高機能クリオスタット（6,804 千円）、蛍光顕微鏡（4,935 千円）をセンター内に設置した。研究費はセンターの運営や、機器の充実･管理に必要な中央経費および計画研究を行う 11 名の研究者と、学内公募により採択された 6 名の研究者に配分し、研究を実施した。

なお、研究を開始するにあたり、10 月 15 日に東京理科大学より辻孝教授を招いて、本プロジェクトに関わる研究課題についての発表並びに討議を行うキックオフシンポジウムを開催した。

３）アニマルセンター

平成 22 年度の利用者講習会には、更新者（4 年毎）11 名、新規登録者 24 名が受講した。実験申請件数は 27 件であった。総使用動物は前年を大幅に上回り、SPF 室の利用も増加した。また、3R の原則〔Refinement（苦痛の排除）、Replacement（代替手段の模索）並びに Reduction（使用数の制限）からなる動物実験の倫理的原則〕が利用者全体に浸透し、遵守された上で、実験動物を利用した研究活動を行っている。新たな実験装置として手術室に「マ

イクロＸ線ＣＴスキャナ」を導入したことにより、今後さらに研究活動が活性化されることになる。

４）科研費等の外部資金の導入等

平成 22 年度科学研究費補助金の獲得状況は、**別表 2（大学）、別表 3（短大）**のとおり。なお、平成 22 年 7 月及び 9 月に平成 23 年度科学研究費補助金の申請予定者を対象に、同補助金の獲得を目指し、申請のポイント等に関する説明会を実施した。

また、福岡歯科大学は奨学寄附金として 23 件（14,600 千円）、受託研究として 4 件（7,969 千円）を受け、福岡医療短期大学は奨学寄付金として 2 件（500 千円）を受け入れた。

この他、福岡歯科大学は企業より共同研究 1 件の研究を受託した。また、弁理士による特許セミナーを初めて開催し、教員 24 名、職員 10 名の計 34 名が受講し、知的財産制度等について知識を深めた。

５）研究者マインドの醸成

福岡歯科大学・福岡医療短期大学における研究活性化の一環として、専任教員及び医員等を対象に、6か月ごとに研究（研修）テーマの取組み進捗状況をまとめ所属長を経て理事長に提出、理事長はこの報告書をもとに学長とともに各所属長と面談を行い、若手教員の育成、計画的な研究の実施等の指導を行った。

また、教育研究経費等として、福岡歯科大学には学長重点配分経費 69,508 千円、病院長重点配分経費 10,000 千円、学術振興基金事業経費 18,750 千円を、福岡医療短期大学には 1,000 千円を共同研究費として重点配分した。

平成 22 年度の研究業績は、福岡歯科大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は 143 編、うち欧文は 69 編であり、福岡医療短期大学専任教員の総論文数（著書、原著論文等）は 18 編、うち欧文は 3 編であった（**別表 4**）。

４．社会連携・国際交流について

１）医科歯科総合病院

（１）患者数等

医科歯科総合病院の外来患者・入院患者総数等は表 8 のとおり。

表 8　外来患者・入院患者総数等

	外来患者総数（人）		入院患者総数（人）	
	22 年度	対前年比	22 年度	対前年比
医　　科	32,339	22.0%増	8,060	31.6%増
歯　　科	119,248	2.3%増	2,671	34.6%減
合　　計	151,587	6.0%増	10,731	5.1%増
1 日当り	566.7	5.8%増	29.4	5.0%増
平均在院日数	―	―	10 日	―
病床稼働率	―	―	53.6%	2.3%減

（２）診療責任体制、情報公開

診療の責任体制確立のため、新患の診察は教授が担当している。また、平成 22 年度は診療録等の開示要求が 8 件あり、個人情報保護管理委員会で審議した結果、全件開示した。

（３）眼科の開設及び医療法改正に伴う標榜科の変更

総合医療センターとしての拡充を目指し、4 月 1 日から眼科を開設した。また、眼科の標榜科の届出に併せて医療法改正に基づく標榜科の変更を行い、新たに放射線診断科、脳・血管内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病内科、消化器外科、腫瘍外科、乳腺外科、肛門外科及び美容外科を標榜した。

（４）新病院建設の検討

病院将来構想検討委員会において、患者サービスの向上、学生指導の充実等を考慮した新病院の建設について検討を行った。

（５）クリティカルパスの導入

平成 22 年度は新たに白内障手術（入院、片眼）、白内障手術（入院、両眼）、白内障手術（日帰り）、緑内障手術、白内障緑内障同時手術、硝子体手術、眼瞼手術、白内障縫合不全についてのクリティカルパスを導入した。

（６）診療参加型臨床実習の充実

卒前の臨床実習では従来からの一口腔単位の治療に加え、充填処置、歯内治療、抜歯などひとつひとつの基本的な歯科治療の達成度を到達シートに記入する形式が２年目を迎え、平成 22 年度からはこの到達シートに冠橋義歯と有床義歯の項目を追加し、さらに学生の診療参加の推進を図った。また、医科実習に従来の内科、外科、耳鼻咽喉科に加えて、心療内科、眼科も関与することになり、病棟、外来における臨床実習内容がさらに充実した。この他、新たに開業医等外部から臨床教授、臨床准教授を採用し臨床実習指導の強化を図った。

（７）歯科医師臨床研修

必修化から 5 年目となる平成 22 年度歯科医師臨床研修は、70 名（複合型研修プログラム 64 名、単独型研修プログラム 6 名）が研修を行い、平成 23 年 3 月 31 日には 69 名（複合型研修プログラム 63 名、単独型研修プログラム 6 名）に修了証が授与された。また、病気中断のあった 1 名にも平成 23 年 5 月 10 日に修了証が授与された。

２）介護老人保健施設

開設して 9 年目を迎え(平成 14 年 8 月開設)、施設の年度目標として「一日一笑」～なごみ(和)～というスローガンを掲げて、利用者に選ばれる魅力ある施設を目指し、笑顔・優しさ・思いやりに努めた。

また、教育施設として福岡歯科大学及び福岡医療短期大学はもとより近隣の福岡大学の医学部及び看護学科の実習施設として学生の受け入れ等により、延べ 1,542 名を対象に福祉実習、登院前実習、ヘルパー2 級資格実習、口腔介護実習等を実施するとともに、地域に密着した中・高校生の職場体験やボランティア体験等の受け入れも実施した。

平成 22 年度の施設利用者数等は表 9 のとおり。

表 9　サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	１日当り平均(人)
入所者(85 人)	30,283	97.6	0.4%減	83.0
通　所(40 人)	5,373	45.8	4.5%増	18.3

３）地域貢献

（１）大学連携事業

①「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、平成 21 年度に引き続き 3 大学間で大学院学位審査委員を委嘱して 4 件の審査を実施した。また、3 大学主催により平成 22 年 10 月に「第２回ふくおか教育フォーラム」を、平成 23 年 1 月に合同シンポジウムを開催した。この他、平成 23 年 3 月 14 日付けで協定書を締結し、連携協力を一層進めることとした。

②「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、昨年度締結した「単位互換に関する覚書」に基づき単位互換科目を設定するとともに、五大学共同開講授業科目「博多学」を開講した。また、ＦＤ・ＳＤ研修会等を実施したほか、経常費補助金特別補助として交付を受けた補助金を原資として平成 23 年 3 月に五大学連携講演会を一般公開として開催した。

③「4 大学歯学部交流会」（北海道医療大学、岩手医科大学及び昭和大学の各歯学部、福岡歯科大学）においては、第 8 回の交流会を平成 22 年 11 月 12 日に北海道医療大学を当番校として開催され、「臨床実習の状況と充実に向けてー臨床実習の評価方法についてー」をテーマとして討議、情報交換を行った。

④ 平成 21 年 6 月に設立された「大学ネットワークふくおか」（本学を含む福岡都市圏 21 大学と福岡市、福岡商工会議所）においては、パンフレットやホームページ等の広報事業及び学生イベント等について協議を行った。

⑤「九州地域大学教育改善ＦＤ・ＳＤネットワーク（Q－Links)」（発足当初の参画大学：九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡女子大学、福岡歯科大学）の運営に参画するとともに、Q-Links 企画の「Q-Ｌａｂ ＣＤプロジェクト」に教員と職員それぞれ 1 名を参加させ、カリキュラム作成のノウハウを研修させた。

（２）公開講座等

本学園では、歯科医師、歯科衛生士、介護福祉士を養成し、キャンパス内に医科歯科総合病院、介護老人保健施設を設置しているという特色を生かし、超高齢社会における大学の地域貢献のモデルづくり等を目指し、地域貢献（別表 5）、公開講座等（別表 6）を展開した。

また、福岡歯科大学では歯科医師等の生涯学習を支援するため「福岡歯科大学歯科医師卒後研修委員会規則」を制定し、平成 22 年 10 月から「口腔インプラント卒後研修プログラム初級講習会」を開催した。同講習会には定員 20 名をオーバーする 28 名の歯科医師が参加、インプラント治療の基本的知識と技術の修得に励んだ。

４）国際交流

（１）大学間交流等

① 福岡歯科大学

ア 戦略的大学連携支援事業の一環として、平成 22 年 12 月 4 日にアクロス福岡国際会議場で「口腔医学国際シンポジウム」を初めて開催した。“Grand Design for Future Dentistry”をテーマにした本シンポジウムには全国から歯学・医学関係者のほか、一般聴講者を含め約 240 名が参加した。基調講演を田中理事長、講演をダルハウジー大学 M. Michael Cohen Jr.教授、ケンタッキー大学 David A. Nash 教授、ベルン大学 飯塚

建行教授、東京大学 高戸毅教授、北海道大学 戸塚靖則教授が行い、引き続き行われたディスカッションでは北村大学長をファシリテーターに、国際的な視野で活発な議論が交わされるなど、口腔医学の位置づけを明確にすることができた。

イ 平成 22 年 4 月に上海交通大学口腔医学院（中国）の馮希平教授ら教員 3 名と・学生 6 名が本学を訪れ、同教授による講演や医科歯科総合病院の見学等を行った。翌年 3 月には稲井哲一郎教授ら教員 2 名と学生 6 名が上海交通大学口腔医学院を訪問し、同大学との相互交流を実施した。

ウ 独立行政法人国際協力機構（JICA）の研修員6人（出身国：チリ、サモア等）がサンシャインシティ、サンシャインプラザの施設見学、歯科治療のシミュレーション実習や口臭測定実習を7月29日、30日の2日間、本学で行った。

エ 首都医科大学口腔医学系附属北京口腔医院(中国)との実習協定書に基づき、同大学の学生が平成23年1月24日から1か月間、本学で実習等の研修を行った。

オ ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)と締結した提携協定に基づき、平成23年度に本学より教員（2名）及び学生（4名）を派遣することを決定した。

カ 大学院生1名（中国）を私費外国人留学生として受け入れ、授業料を「私費外国人留学生授業料減免規則」に基づき減免（30㌫）した。

② 福岡医療短期大学

平成 22 年 5 月 19 日に東釜山大学（平成 16 年 12 月姉妹校協定締結）歯衛生科の学生等 38 名が来学し、学生間での交流を実施した。また、9 月には歯科衛生学科の 3 学年の 75 名が学生相互の交流のために東釜山大学を訪問した。

（２）海外研修派遣

研究の国際化を進展させるため、福岡歯科大学では延べ 56 名の教職員及び大学院生を海外研修派遣**（別表 7）**した。その他、平成 23 年度にフライブルグ大学（ドイツ）及び上海交通大学口腔医学院（中国）に第 1 種研修派遣（1 月以上 1 年以内の海外派遣）することを決定した。また、福岡医療短期大学では 5 名の教員を海外研修派遣**（別表 7）**した。

５．組織運営の改善・効率化等について

１）組織運営の改善

（１）国家公務員準拠の給与改定等

① 国家公務員に準拠し、人事院勧告を踏まえ、俸給及び期末手当支給率の引き下げを行った。

② 優秀な医師･歯科医師を確保し、口腔医学教育･研究の充実強化を図るとともに患者増、病院収入増など診療への貢献を促進するため、給与規程第 37 条を適用し、福岡歯科大学専任教員及び医員のうち診療を行う医師・歯科医師に対して暫定診療手当を平成 22 年 4 月から支給した。

（２）退職金の見直し

近郊大学、他私立歯科大学に比し割高な状態にある退職金について、国家公務員の退職手当法に準拠し「学校法人福岡歯科学園退職金規程」の改正を行った。併せて、法人の役職に対する退職慰労金の引下げも平成 23 年度から実施することとした。また、嘱託職員に対する退職金の取扱についても見直しを行った。

（３）事務処理の合理化・効率化のため、事務組織の見直し等

① 事務組織の活力向上及び効率的な事務執行体制の整備等のため、主幹、参事、副参事の職位を廃止し、新たに課長補佐を置くこととした。

② 事務組織の効率化のため、不断の見直しを進めてきたが、平成 23 年度から財務課の財務係と出納係を統合し、財務係とすることを決定した。

③ 学園の携帯電話契約先の一本化、研修報告書の様式の統一、出勤簿作成方法の見直し等により経費削減、業務の効率化を行った。

④ 予算編成に必要な人件費算定方法を見直し、算定時間の大幅な削減を実現した。

⑤「専任教職員研修派遣規程施行規則」を改正し、第 3 種派遣にかかる委員会開催、派遣発令等の業務を廃止する等の事務省力化とともに、海外等への研修派遣の活性化を図った。

⑥ 固定資産の備品価格は従来 10 万円以上としていたが、備品購入の利便性、備品管理業務の効率化を図るため、平成 23 年度から備品を 50 万円以上とし、それに伴い用品は 10 万円以上 50 万円未満、消耗品は 10 万円未満とすることを決定し、経理規程等の改正を行った。

⑦ 調達請求の Web システムを平成 23 年度から導入することを決定し、関係規則の改正を行った。Web システムを利用した発生源入力にすることで業務時間の削減、また、予算執行状況を Web 上で確認できるため、ペーパーレス化が図られコスト削減に繋がる。

（４）短大学長及び大学役職教員の改選等

① 第 434 回理事会（平成 23 年 2 月開催）において、平成 23 年 4 月 1 日付けで福岡医療短期大学長に栢豪洋学長の再任を可決した。

② 第 433 回理事会（平成 23 年 1 月開催）において、平成 23 年 4 月 1 日付けで病院長に小島寛教授、学生部長に岡部幸司教授、情報図書館長に大関悟教授、口腔･歯学部門長に佐藤博信教授、全身管理･医歯学部門長に湯浅賢治教授、社会医歯学部門長に埴岡隆教授、基礎医歯学部門長に谷口邦久教授を選任した。

③ 平成 23 年 3 月で任期満了となる松葉健一施設長の後任に、平成 22 年度末で定年となる中島與志行教授を決定した。

（５）柔軟で多様な人事制度と人材育成等

① 教員選考規程等の改正

有為な人材確保のため「福岡歯科大学教員選考規程」の改正を行い、教員定数の範囲内で助教に代えて講師を採用（昇任を含む）することができることとした。また、「福岡歯科大学医員規則」の改正を行い、博士の学位を有する医員の嘱託期間を 3 年から 5 年に延長した。

② 任期制教員の再任

「学校法人福岡歯科学園教員の任期に関する規程」に基づき任期満了となる教員（大学・教授 4 名、准教授 1 名、講師 5 名、助教 7 名）の再任審議を教員評価委員会が行い、再任申請者全員を再任することとした。

③ 定年後の継続雇用制度導入に係る「学校法人福岡歯科学園定年再雇用規程」に基づき 1 名（事務職 1 名）を再雇用した。

④ 人材育成

事務職員等の資質向上を目指し、学外の各種研修会への参加を促進し、事務職員等延

べ60名が能力向上セミナー、資格講習会等（**別表8**）に参加した。学内では、**別表9**のとおり、各種の研修を行った。また、戦略的大学連携支援事業の一環として、7 月に北海道医療大学及び11月に鶴見大学において開催されたＳＤ研修に本学から各2名が参加し、口腔医学の浸透を図ったほか、連携大学間で職員の短期研修派遣を行い、鶴見大学及び神奈川歯科大学に各 1 名を 3 日間派遣する一方、鶴見大学及び北海道医療大学からの各 1 名の派遣を受け入れた（**別表 10**）。この他、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ファシリテーション基礎研修」等に事務職員等6名（**別表11**）が参加した。

２）財政基盤の確保

（１）外部資金獲得

福岡歯科大学は、私立大学等経常費補助金特別補助の教育・学習方法等改善支援として4件8,051千円の助成を受けた。また、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る補助金として施設整備費補助金 24,738 千円（再生医学研究：in vivo マイクロＸ線ＣＴスキャナ）、研究設備整備費補助金 15,736 千円（再生医学研究：蛍光Ｘ線分析装置等）、研究費補助金30,861千円（先端科学研究：17,890千円、再生医学研究：12,971千円）の助成を受けた。大学改革推進等補助金として戦略的大学連携支援事業46,219千円、大学教育・学生支援推進事業(学生支援推進プログラム)11,250 千円の助成を受けた。この他、私立学校施設整備費補助金 21,687 千円（フィルター付排気装置一体型解剖実習台等）の助成を受けた。

福岡医療短期大学は、大学改革推進等補助金として、大学生の就業力育成支援事業19,988千円、大学教育・学生支援推進事業(就職支援推進プログラム) 9,500千円、また、福岡県福祉・介護人材確保臨時対策事業として6,667千円の助成を受けた。さらに、文部科学省委託事業（社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業）として 11,120 千円の助成を受けた。

（２）資産運用による収入確保及び経費節減

特定資産等の運用については、依然として厳しい経済情勢の影響を受け、資産運用収入は784,801千円で前年度比13.1%の減収となった。しかしながら、本学の資産運用収入は帰属収入の 11.3%に相当し学生生徒等納付金、事業収入に次ぐ収入源となっている。一方、支出については、教育研究活動の質を維持しながら、人件費および管理経費のコスト削減に取り組み、不要不急の支出は厳しく抑制し効率的な予算執行に努めた。

（３）学生納付金の見直し

厳しい社会経済状況や歯学部志願者の減少する中、社会の要請に応える有為の人材確保と入学者に対する経済的支援を行なうため、平成 23 年度入学生から初年度学生納付金を160 万円引き下げた。さらに、現在の深刻化する経済的状況の変化を考慮し、学費負担者の初年度の経済的負担を軽減するため、平成24年度入学生より入学時学生納付金となっていた教育充実資金440万円を6年間の分割納付とすること、併せて、入学検定料の引き下げを第435回理事会（平成23年3月開催）で決定した。

（４）学園駐車場利用料の改定

駐車場使用に係る収支および他大学の状況を勘案し、平成23年度から教職員等の駐車場使用料を月額1,500円から2,000円に改定することを決定した。なお、学生の駐車場使用料については据え置くこととした。

3）自己点検評価

（1）福岡歯科大学は、平成 18 年大学基準協会の認証評価時の助言事項について 7 月に改善報告書を提出し、同協会からは改善内容を評価する回答があった。なお、2 回目となる認証評価を平成 25 年度に大学基準協会及び高等教育評価機構から受けることとした。また、自己点検・評価委員会において 2 年毎に作成している自己点検・評価報告書「福岡歯科大学の現状と課題 08,09 年版」を平成 23 年 3 月に発刊した。

（2）福岡医療短期大学は、2 回目となる認証評価を平成 26 年度に短期大学基準協会から受けることとした。また、自己点検・評価委員会において 3 年毎に作成している自己点検・評価報告書「福岡医療短期大学 歯科衛生学科・保健福祉学科の現状と課題（2007～2009 年度)」を平成 23 年 3 月に発刊した。

4）広報・情報公開

（1）学園ホームページの充実

各部門のホームページに統一感を持たせるため、平成 22 年 7 月から医科歯科総合病院のトップページをリニューアルした。また、大学入試情報へのアクセスを容易にする等の利便性の向上を図ったほか、教員へのインタビュー記事を定期的に掲載するコーナーを新設した。この他、携帯電話用ホームページを全面的に改訂して、携帯電話からの入試要項請求を可能にした。

（2）情報公開

教育情報の公開については、平成 23 年 4 月からの義務化を前に、教授会や常任役員会で検討のうえ、教育研究活動等の状況についてインターネット上のホームページで積極的に公開した。財務情報については、学園の利害関係者（在学生、保護者、教職員等）から請求があった場合の対応として、財務課に設置している財務書類及び事業報告書を閲覧に供している。また、学園広報誌「ニューソフィア」に掲載するほか、ホームページで一般の人にも内容が分かるようグラフや解説付きで積極的に公開した。

5）情報化の推進

（1）情報化推進体制の整備

学園全体の情報化を推進する体制として、情報システム委員会において「福岡歯科学園の総合的な情報化体制について（案)」を取りまとめたが、当面はこの案を念頭におきつつも、情報システム委員会でチーム等を編成し対応することとした。

（2）教職員の情報リテラシー育成計画の策定・実施

情報システム委員会において、「教職員の情報リテラシー育成に係る基本体系」及び「教職員及びグループリーダーの情報リテラシー育成の考え方」を取りまとめた。これにより、平成 22 年度は、教職員のニーズが高い「ホームページ作成研修」を企画・実施し、教職員 28 名が受講した。

（3）事務の高度化とサービス向上の促進

「事務情報共有システム」の構築と事務局全課の共有フォルダ化を実現し、事務の高度化と事務サービスの向上が促進できる環境を整備した。

（4）病院システムの充実等

システムを安定的に運用するため、新規採用者や臨床研修医に対して HIS 運営責任者や各科の HIS 担当者等により HIS 操作の教育を行った。また、電子レセプト請求システムを

導入し、平成 23 年 5 月から開始される歯科のレセプトオンライン提出に向け準備を開始した。

6）安全管理および法令遵守

（1）災害対策等

昨年度から計画的に実施してきた本館非常灯及び研究棟誘導灯の取替工事を竣工した。また、研究棟の老朽化した給水管の更新工事を行った。

（2）セクシュアル・ハラスメント対策

セクシュアル・ハラスメント防止にかかる相談体制を強化するため、相談員等を 4 月、5 月、7 月にハラスメントに係る外部研修に派遣するとともに、派遣者による相談員等への学内研修を実施した。

（3）科研費の適正管理

文部科学省が定めた「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、平成 22 年 9 月に平成 21 年度交付の科学研究費補助金を対象に本学園監事による内部監査を前年に引き続き実施した。

6．その他

1）福岡歯科学園第二次中期構想を制定

学園の中期的な将来ビジョンとなる「第二次中期構想」を第 435 回理事会（平成 23 年 3 月開催）の議を経て制定した。平成 23 年度から平成 28 年度までの 6 年間を期間としており、教育、研究、学生支援、社会連携・社会貢献、組織運営の 5 つの項目を柱として、基本となる構想とその具体的な目標を明確にした。

2）法人名変更に伴う寄附行為変更の認可申請

医療、保健、福祉分野の社会貢献を使命とする総合学園として、その名称を「福岡学園」に変更するため、第 133 回評議員会及び第 435 回理事会（平成 23 年 3 月開催）の議を経て、平成 23 年 3 月 24 日付けで文部科学省に寄附行為変更の認可申請を行った。

3）東日本大震災への支援

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に対して、本学園は犠牲となられた皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に、心よりのお見舞いを申し上げた。支援策として、3 月 16 日から義援金募集活動を開始した。また、文部科学省等の要請に基づき、医薬品、食料や日用品の提供を申し出たほか、歯科診療、身元確認等のための歯科医師等の派遣要請に関しても積極的に派遣することを申し出た。

4）福岡歯科大学 40 周年記念事業準備委員会を設置

平成 24 年度に開催予定である 40 周年記念事業を準備するため、第 434 回理事会（平成 23 年 2 月開催）で福岡歯科大学 40 周年記念事業準備委員会要綱が制定され、当該要綱に基づき本田武司常務理事を委員長とし、教職員及び福岡歯科大学同窓会役員の計 10 名からなる委員会を設置した。

Ⅲ．財務の概要

１．資金収支の状況

平成 22 年度資金収支計算書の収入額は 129 億 6,235 万 9 千円で、前年度からの繰越支払資金 12 億 5,401 万 5 千円を加えると、収入合計は 142 億 1,637 万 4 千円である。支出額は 134 億 391 万 7 千円となり、次年度繰越支払資金は 8 億 1,245 万 7 千円であった。**（別表 12）**

２．消費収支の状況

平成 22 年度消費収支計算書の帰属収入合計額は 69 億 6,735 万 9 千円で、第 1 号基本金に解剖実習室改修工事費、研究棟給水本管更新工事費、学生ホールオープン化工事費及び無線アクセスポイント増設工事費等として 5 億 3,188 万 9 千円、病院建設等資金としての第 2 号基本金引当資産に 6 億円、教育研究基金及び学術振興基金等の第 3 号基本金引当資産に 15 億 2,723 万円を組入れたため、基本金組入額を差引いた消費収入の部合計額は 43 億 824 万円である。消費支出の部合計額は 54 億 2,415 万 5 千円で、差引 11 億 1,591 万 5 千円の当年度支出超過となり、前年度からの繰越消費収入超過額 47 億 7,766 万 6 千円と基本金取崩額 28 万 9 千円を加えると翌年度繰越消費収入超過額は 36 億 6,204 万円であった。**（別表 13）**

３．貸借対照表

平成 22 年度末（平成 23 年 3 月 31 日）現在の貸借対照表資産の部合計額は、567 億 4,703 万 3 千円で、負債の部合計額 35 億 8,475 万 9 千円を差引いた正味財産は、531 億 6,227 万 4 千円となり、21 年度に比べ 15 億 4,320 万 5 千円の増であった。**（別表 14）**

４．財務比率表

財務比率表の内、貸借対照表関係の総負債比率（総資産に対する総負債の割合）は、平成 22 年度末で 6.3％となり、全国平均 15.0％（平成 21 年度）をかなり下回った。消費収支関係の人件費比率（帰属収入に対する人件費の割合）は、平成 22 年度で 48.9％となり、全国平均 50.0％（平成 21 年度）を下回った。教育研究経費比率は、24.9％であった。**（別表 15）**

５．資産運用収入

平成 22 年度の資産運用収入は 7 億 3,801 万 2 千円（施設設備利用料及び短期運用収入等を除く）で、運用可能資産(特定資産等)に対する利回りは約 1.68％であった。低金利状況の中で安全性を第一に考慮した、資産運用を行った。

６．基本金組入れ

病院建設等資金としての第 2 号基本金引当資産は、組入計画（年間 6 億円）通り、平成 22 年度末で 88 億円となった。また、福岡歯科大学における教育研究の振興を図るため教育研究基金の組入計画を 165 億円に変更し、平成 22 年度には 15 億円を組入れた。

７．経年比較

資金収支総括表、消費収支総括表、貸借対照表、財務比率表の経年比較（5 年間）及び帰属収入・消費支出構成比率表（**別表 16**）、年度別推移表（**別表 17**）を添付した。いずれも特に問題なく順調に推移した。

別表１　平成22年度先端科学研究センター発表会等プログラム

【計画研究発表会】

日時：平成22年12月22日（水）13:00～19:40

場所：福岡歯科大学　504講義室

関口睦夫：ゲノム安定性と発がんの抑制

谷口邦久：口腔腫瘍転移におけるセンチネルリンパ節のリンパ管動態

日高真純：発がんを抑えるアポトーシスの機構

早川　浩：酸化ストレスと遺伝子発現

池邉哲郎：環境因子の遺伝子系への作用－口腔がん化におけるDNA酸化とその抑制因子についての研究－

梅津桂子：遺伝子安定性における組換えの役割

山﨑　純：シグナル伝達の異常と疾患－イオンチャネルと上皮細胞－

沢　禎彦：環境ストレスに対する免疫応答

岡部幸司：疾患の制御における骨代謝

佐藤博信：顎骨の加齢的変化－I型コラーゲンの動態－

大星博明：環境ストレスに対する細胞の応答

坂上竜資：組織再生環境におけるゲノムワイドな遺伝子発現の安定性

廣藤卓雄：細菌感染と口腔疾患

【公募研究発表会】

日時：平成23年3月23日（水）13:00～18:15

場所：福岡歯科大学　601講義室

髙木康光：DNAの酸化損傷を抑制するMTH2蛋白質の機能解析

林　道夫：ゲノムの安定な維持に関与するヘリカーゼの体系的な解析―酵母 *Saccharomyces cerevisiae* を用いて

伊東理世子：酸化グアニン除去機構の解明―ヒト NUDT5 蛋白質の酸化ヌクレオチド分解酵素としての活性

藤兼亮輔：DNAアルキル化損傷に応答するアポトーシスの分子機構の解析

徳本正憲：腎不全の血管石灰化における抑制機構の解析

岡本富士雄：新規抗ClC7抗体の破骨細胞ClC7型Cl^-チャネル活性と骨吸収活性に及ぼす効果

畠山雄次：骨芽細胞における GDF-5 の MMP-2 酵素活性制御メカニズムに関する研究

敦賀英知：歯根膜オキシタラン線維の形成機構

稲井哲一郎：タイト結合膜蛋白 claudin 分子間の相互作用における細胞外第一ループの役割の解析

岡　暁子：軟口蓋組織に特徴的に発現する遺伝子の探索

大野　純：ミニ移植法による口腔がんの抑制

畑　快右：硝子体細胞の TNF-αに対する反応性とその制御

中尾新太郎：眼球にリンパ管は存在するか？：網膜疾患におけるリンパ管的機能の可能性

久留島秀朗：血管部位別の特徴と TRPC ファミリーの組成に関する研究

大久保つや子：T 型カルシウムチャネルによる腫瘍細胞増殖の制御

【公開シンポジウム】 Genomic Stability under Environmental Stress

日時：　2010 年 12 月 6 日（月）9:00～12:30

場所：　福岡歯科大学（FDC）701 講義室

K. Umezu (FDC): Oxidative stress-induced cellular processes in yeast *Saccharomyces cerevisiae*: Chromosome rearrangements and cell death

M. Sekiguchi (FDC): Elimination of mutagenic substrates for accurate DNA replication

H. Hayakawa (FDC): Oxidative stress and RNA quality control

M. Hidaka (FDC): Genome stability preserved by induction of apoptosis

Samuel H. Wilson (NIH, USA): Cancer and DNA repair

別表２　　平成２２年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡歯科大学】　　（単位：千円）

区分	種類		平成２１年度						平成２２年度						前年度比較増減(H22-H21)					
			申請件数	申請額	決定件数	決定額 直接経費	決定額 間接経費	決定額 計	申請件数	申請額	決定件数	決定額 直接経費	決定額 間接経費	決定額 計	申請件数	申請額	決定件数	決定額 直接経費	決定額 間接経費	決定額 計
文部科学省	特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	新規	1	7,800	0	0	0	0	1	4,000	0	0	0	0	0	-3,800	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	1	4,134	0	0	0	0	1	4,134	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(B)	新規	69	156,117	5	7,300	2,190	9,490	65	130,029	3	5,800	1,740	7,540	-4	-26,088	-2	-1,500	-450	-1,950
		継続	12	11,700	12	11,700	3,510	15,210	6	5,900	6	6,700	2,010	8,710	-6	-5,800	-6	-5,000	-1,500	-6,500
	小計	新規	70	163,917	5	7,300	2,190	9,490	67	138,163	3	5,800	1,740	7,540	-3	-25,754	-2	-1,500	-450	-1,950
		継続	12	11,700	12	11,700	3,510	15,210	6	5,900	6	6,700	2,010	8,710	-6	-5,800	-6	-5,000	-1,500	-6,500
		文科省合計	82	175,617	17	19,000	5,700	24,700	73	144,063	9	12,500	3,750	16,250	-9	-31,554	-8	-6,500	-1,950	-8,450
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	8	49,502	0	0	0	0	10	71,802	2	12,800	3,840	16,640	-2	22,300	2	12,800	3,840	16,640
		継続	5	14,400	5	14,400	4,320	18,720	4	10,400	4	10,400	3,120	13,520	1	-4,000	-1	-4,000	-1,200	-5,200
	基盤研究(C)	新規	51	108,777	13	22,900	6,870	29,770	41	80,588	4	5,500	1,650	7,150	10	-28,189	-9	-17,400	-5,220	-22,620
		継続	11	10,500	11	10,500	3,150	13,650	22	19,000	24	21,100	6,330	27,430	-11	8,500	13	10,600	3,180	13,780
	挑戦的萌芽研究	新規	27	62,279	1	1,600	0	1,600	20	41,902	1	1,200	0	1,200	7	-20,377	0	-400	0	-400
		継続	2	1,800	2	2,400	0	2,400	2	2,400	2	2,400	0	2,400	0	600	0	0	0	0
	(注)研究活動スタート支援	新規	0	0	0	0	0	0	3	6,270	0	0	0	0	-3	6,270	0	0	0	0
		継続	2	2,380	2	2,380	714	3,094	0	0	0	0	0	0	2	-2,380	-2	-2,380	-714	-3,094
	小計	新規	86	220,558	14	24,500	6,870	31,370	74	200,562	7	19,500	5,490	24,990	12	-19,996	-7	-5,000	-1,380	-6,380
		継続	20	29,080	20	29,680	8,184	37,864	28	31,800	30	33,900	9,450	43,350	-8	2,720	10	4,220	1,266	5,486
		学振合計	106	249,638	34	54,180	15,054	69,234	102	232,362	37	53,400	14,940	68,340	4	-17,276	3	-780	-114	-894
合計		新規	156	384,475	19	31,800	9,060	40,860	141	338,725	10	25,300	7,230	32,530	9	-45,750	-9	-6,500	-1,830	-8,330
		継続	32	40,780	32	41,380	11,694	53,074	34	37,700	36	40,600	11,460	52,060	-14	-3,080	4	-780	-234	-1,014
		総合計	188	425,255	51	73,180	20,754	93,934	175	376,425	46	65,900	18,690	84,590	-5	-48,830	-5	-7,280	-2,064	-9,344

注：「研究活動スタート支援」は平成21年度まで公募していた「若手研究(スタートアップ)」の名称変更である。

別表３　平成２２年度 科学研究費補助金決定状況

【福岡医療短期大学】　　（単位：千円）

区分 / 種類			平成２１年度						平成２２年度						前年度比較増減(H22-H21)					
			申請件数	申請額	内定件数	内定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額			申請件数	申請額	決定件数	決定額		
						直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
文部科学省	特別推進研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特定領域研究	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	若手研究(B)	新規	4	4,909	0	0	0	0	3	2,280	0	0	0	0	-1	-2,629	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000	300	1300	0	0	1	1,000	300	1,300
	小計	新規	4	4,909	0	0	0	0	3	2,280	0	0	0	0	-1	-2,629	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000	300	1,300	0	0	1	1,000	300	1,300
		文科省合計	4	4,909	0	0	0	0	3	2,280	1	1,000	300	1,300	-1	-2,629	1	1,000	300	1,300
日本学術振興会	基盤研究(S)	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0	0	0	0	1	11,900	0	0	0	0	1	11,900	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(B)	新規	0	0	0	0	0	0	1	2,719	0	0	0	0	1	2,719	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	基盤研究(C)	新規	10	11,522	0	0	0	0	3	3,613	0	0	0	0	-7	-7,909	0	0	0	0
		継続	2	1,700	2	1,700	510	2,210	0	0	0	0	0	0	-2	-1,700	-2	-1,700	-510	-2,210
	挑戦的萌芽研究	新規	7	9,174	0	0	0	0	11	16,932	1	1,400	0	1,400	4	7,758	1	1,400	0	1,400
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(注)研究活動スタート支援	新規	0	0	0	0	0	0	1	1,420	0	0	0	0	1	1,420	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	新規	17	22,076	0	0	0	0	17	36,584	1	1,400	0	1,400	0	15,888	1	1,400	0	1,400
		継続	2	1,300	2	1,700	510	2,210	0	0	0	0	0	0	-2	-1,700	-2	-1,700	-510	-2,210
		学振合計	19	23,376	2	1,300	360	1,660	17	36,584	1	1,400	0	1,400	-2	14,188	-1	-300	-510	-810
合計		新規	21	26,185	0	0	0	0	20	38,864	1	1,400	0	1,400	-1	13,259	1	1,400	0	1,400
		継続	2	1,300	2	1,300	360	1,660	0	0	1	1,000	300	1,300	-2	-1,700	-1	-700	-210	-910
		総合計	23	27,485	2	1,300	360	1,660	20	38,864	2	2,400	300	2,700	-3	11,559	0	700	-210	490

注：「研究活動スタート支援」は平成21年度まで公募していた「若手研究(スタートアップ)」の名称変更である。

別表4　平成22年度研究業績（欧文）一覧

〔福岡歯科大学〕

1.著書

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合医学	Potentilas of gene therapy for neuroprotection and neurogenesis in brain ischemia.	Ooboshi H, Ishikawa E, Kumai Y, Shichita T, Takada J, Ibayashi S	Research Signpost			47-59	2010
生体構造学	Lessons from the amelogenin knockout mice	Goldberg M,Haruyama N, Hatakeyama J, Hatakeyama Y, Gibson CW, Kulkarni AB	Bentham Science Publishers LTD.			25-31	2010

2.総説（review含む）

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Surgical or nonsurgical treatment for teeth with existing root filings?	Naito T	Evid Based Dent.	11	2	54-55	2010
	Uncertainty remains regarding long-term success of mineral trioxide aggregate for direct pulp capping.	Naito T	J Evid Based Dent Pract.	10	4	250-251	2010
総合医学	Vitamin D inhibition of TACE and prevention of renal osteodystrophy and cardiovascular mortality.	Dusso A, Arcidiacono MV, Yang J, Tokumoto M	J Steroid Biochem Mol Biol.	121	1-2	193-198	2010
機能生物化学	Quorum sensing and morphological regulation in the pathogenic fungus Candida albicans	Cho T, Nagao J, Imayoshi R, Kaminishi H, Aoyama T, Nakayama H	J Oral Biosciences	52	3	233-239	2010

3.原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
総合歯科学	Effects of probiotic Lactobacillus salivarius WB21 on halitosis and oral health: an open-label pilot trial.	Iwamoto T, Suzuki N, Tanabe K, Takeshita T, Hirofuji T	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod.	110	2	201-208	2010
	Relationship between oral malodor and the global composition of indigenous bacterial populations in saliva.	Takeshita T, Suzuki N, Nakano Y, Yoneda M, Hirofuji T, Yamasita Y	Appl Environ Microbiol.	76	9	2806-2814	2010
	Oral Health on the Quality of Life of Dental Patients.	Naito T, Naito M, Miyaki K, Sugiyama S, Fujiki S, Habu S, Yoneda M, Suzuki N, Hirofuji T, Nagayama T	J.Fukuoka Dent.Coll.	36	4	139-147	2010
	Application of a chairside anaerobic culture test for endodontic treatment.	Yoneda M, Kita S, Suzuki N, Macedo SM, Iha K, Hirofuji T	Int J Dent.			Article ID942130 8 pages	2010
口腔治療学（総合歯科学）	FGF-2 stimulates periodontal regeneration: results of a multi-center randomized clinical trial.	Kitamura M, Akamatu M, Machigashira M, Hara Y, Sakagami R, Hirofuji T, Hamachi T, Maeda K, Yokota M, Kido J, Nagata T	J Dent Res.	90	1	35-40	2011
口腔治療学（細胞分子生物学）	Antibodies against ClC7 inhibit extracellular acidification-induced Cl^- currents and bone resorption activity in mouse osteoclasts.	Ohgi K, Okamoto F, Kajiya H, Sakagami R, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.	383	1	79-90	2011
口腔治療学（生体構造学）（ 咬合修復学）（ 歯科医療工学）	Cell Viability and Tissues Response of High Molecule Weight DNA/protamine Complex	Mori N, Iwahashi T, Ohno J, Shinozaki Y, Sakagami R, Mitarai M, Fukushima T	J Oral Tissue Engineering	8	3	188-194	2011
咬合修復学	Evaluation of bonding behavior of silver-tin-zinc-indium alloy to adhesive luting cements.	Shimizu H, Kawaguchi T, Takahashi K, Takahashi Y	Eur J Prosthodont Restor Dent.	18	4	185-188	2010
	Mechanical properties of injection-molded thermoplastic denture base resins.	Hamanaka I, Takahashi Y, Shimizu H	Acta Odontol Scand.	69	2	75-79	2011
	Effect of location of glass fiber-reinforced composite reinforcement on the flexural properties of a maxillary complete denture in vitro.	Takahashi Y, Yoshida K, Shimizu H	Acta Odontol Scand.				2011
	Effect of surface preparation on the bond strength of heat-polymerized denture base resin to commercially pure titanium and cobalt-chromium alloy.	Kawaguchi T, Shimizu H, Lassila LV, Vallittu PK, Takahashi Y	Dent Mater J.	30	2	143-150	2011
	Higher Contents of Mineral and Collagen but Lower of Hydroxylysine of Collagen in Mandibular Bone Compared with Those of Humeral and Femoral Bones in Human	Sasaki M, Matsuura T, Katafuchi M, Tokutomi K, Sato H	Journal of Hard Tissue Biology	19	3	175-180	2010
咬合修復学（生体構造学）	Influence of carbon dioxide laser irradiation on the healing process of extraction sockets.	Fukuoka H, Daigo Y, Enoki N, Taniguchi K, Sato H	Acta Odontol Scand.	69	1	33-40	2010
咬合修復学（細胞分子生物学）	Higher Contents of Mineral and Collagen but Lower of Hydroxylysine of Collagen in Mandibular Bone Compared with Those of Humeral and Femoral Bones in Human	Nemoto T, Kajiya H, Tsuzuki T, Takahashi Y, Okabe K	Arch Oral Biol.	55	12	981-987	2010

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
成長発達歯学	Changes in lip and cheek pressure due to simulated maxillary dental arch expansion	Hasegawa A, Hisanaga Y, Sakai S, Ishikawa H	Orthodontic Waves	69	2	45-49	2010
成長発達歯学 （生体構造学）	Immunoelectron microscopic study of podoplanin localization in mouse salivary gland myoepithelium.	Hata M, Amano I, Tsuruga E, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	43	2	77-82	2010
	Immunohistochemical examination for the distribution of podoplanin-expressing cells in developing mouse molar tooth germs.	Imaizumi Y, Amano I, Tsuruga E, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochem Cytochem.	43	5	115-121	2010
成長発達歯学 （生体構造学）	Fibulin-4 and -5, but not Fibulin-2, are Associated with Tropoelastin Deposition in Elastin-Producing Cell Culture.	Yamauchi Y, Tsuruga E, Nakashima K, Sawa Y, Ishikawa H	Acta Histochem Cytochem.	43	6	131-138	2010
	EMILIN-1 regulates the amount of oxytalan fiber formation in periodontal ligaments in vitro.	Nakatomi Y, Tsuruga E, Nakashima K, Sawa Y, Ishikawa H	Connect Tissue Res.	52	1	30-35	2011
	Stretch stimuli increase fibulin-5/EMILIN-1 complex on oxytalan fibers in human periodontal ligament cells	Nakashima K, Tsuruga E, Nakatomi Y, Yamauchi Y, Hata Y, Tamaoki S, Sawa Y, Ishikawa H	Orthodontic Waves	70	1	15-20	2011
	Immunohistochemical examination on the distribution of cells espressed lymphatic endothelial marker podoplanin and LYVE-1 in the mouse tongue tissue	Noda Y, Amano I, Hata M, Kojima H, Sawa Y	Acta Histochem. Cytochem.	43	2	61-68	2010
口腔･顎顔面外科学 （細胞分子生物学）	Zoledronic acid inhibits RANK expression and migration of osteoclast precursors during osteoclastogenesis.	Kimachi K, Kajiya H, Nakayama S, Ikebe T, Okabe K	Naunyn Schmiedebergs Arch Pharmacol.	383	3	297-308	2011
診断･全身管理学 （生体構造学） （口腔･顎顔面外科学）	Cervical lymph nodes with or without metastases from oral squamous carcinoma: a correlation of MRI findings and histopathologic architecture	Fukunari F, Okamura K, Zeze R, Kagawa T, Hashimoto K, Yuasa K	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod.	109	6	890-899	2010
総合医学	Change in intracellular pH causes the toxic Ca2+ entry via NCX1 in neuron- and glia-derived cells.	Shono Y, Kamouchi M, Kitazono T, Kuroda J, Nakamura K, Hagiwara N, Ooboshi H, Ibayashi S, Iida M	Cell Mol Neurobiol.	30	3	453-60	2010
	Midkine gene transfer after myocardial infarction in rats prevents remodelling and ameliorates cardiac dysfunction.	Sumida A, Horiba M, Ishiguro H, Takenaka H, Ueda N, Ooboshi H, Opthof T, Kadomatsu K, Kodama I	Cardiovasc Res.	86	1	113-21	2010
	Role of tumour necrosis factor-α (TNFα) in the functional properties of hyalocytes.	Hata Y, Nakao S, Kohno R, Oba K, Kita T, Miura M, Sassa Y, Schering A, Ishibashi T	Br J Ophthalmol.	95	2	261-265	2011
	Histopathology of neovascular tissue from eyes with proliferative diabetic retinopathy after intravitreal bevacizumab injection.	Kohno R, Hata Y, Mochizuki Y, Arita R, Kawahara S, Kita T, Miyazaki M, Hisatomi T, Ikeda Y, Aiello LP, Ishibashi T	Am J Ophthalmol.	150	2	223-229	2010
	Prospective Randomized Trial of a Closed-Suction Drain versus a Penrose Drain after a Colectomy.	Shinohara T, Yamashita Y, Naito M, Maki K, Hashimoto T, Matsuo K, Yamauchi Y, Hoshino S, Tanaka T, Noritomi T, Shimura H	Hepatogastroenterology	57	102-103	1119-1122	2010
	Single orifice vein reconstruction in left liver plus caudate lobe graft.	Yamauchi Y, Noritomi T, Yamashita Y, Mikami K, Hoshino S, Shinohara T, Takahashi Y, Noda N, Matsuoka N, Maekawa T	Hepatogastroenterology	57	101	813-818	2010
	Expression of secretory phospholipase A 2 in insulitis of human transplanted pancreas and its insulinotropic effect on isolated rat islets.	Ishida-Oku M, Iwase M, Sonoki K, Sasaki N, Imoto H, Uchizono Y	Islets	2	5	274-277	2010
	Novel Markers of Left Ventricular Hypertrophy in Uremia	Nakamura H, Tokumoto M, Mizobuchi M, Ritter CS, Finch JL, Mukai M, Slatopolsky E	Am J Nephrol.	31	4	292-302	2010
	Effect of paricalcitol and cinacalcet on serum phosphate, FGF-23, and bone in rats with chronic kidney disease.	Finch JL, Tokumoto M, Nakamura H, Yao W, Shahnazari M, Lane N, Slatopolsky E	Am J Physiol Renal Physiol.	298	6	1315-1322	2010
	Myocardial effects of VDR activators in renal failure.	Mizobuchi M, Nakamura H, Tokumoto M, Finch J, Morrissey J, Liapis H, Slatopolsky E	J Steroid Biochem Mol Biol.	121	1-2	188-192	2010
	Early intervention with intravenous or pulse oral vitamin D therapy is more effective in the treatment of secondary hyperparathyroidism.	Yamada S, Taniguchi M, Tokumoto M, Tsuruya K, Hirakata H, Iida M	Ther Apher Dial.	14	4	424-431	2010

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
口腔保健学	Impact of a tobacco curriculum on smoking behaviour and attitudes toward smoking in dental students in Japan: a three-year follow-up study.	Haresaku S, Hanioka T, Yamamoto M, Ojima M	Int Dent J	60	2	99-105	2010
	Causal assessment of smoking and tooth loss: A systematic review of observational studies	Hanioka T, Ojima M, Tanaka K, Matsuo K, Sato F, Tanaka H	BMC Public Health	11		221	2011
機能生物化学	NO production in RAW264 cells stimulated with Porphyromonas gingivalis extracellular vesicles.	Imayoshi R, Cho T, Kaminishi H	Oral Dis.	17	1	83-89	2011
	Pho85 kinase, a cyclin-dependent kinase, regulates nuclear accumulation of the Rim101 transcription factor in the stress response of Saccharomyces cerevisiae.	Nishizawa M, Tanigawa M, Hayashi M, Maeda T, Yazaki Y, Saeki Y, Toh-e A	Eukaryot Cell.	9	6	943-951	2010
機能生物化学 （生体構造学）	A poly(gamma-glutamic acid)-amphiphile complex as a novel nanovehicle for drug delivery system.	Akao T, Kimura T, Hirofuji YS, Matsunaga K, Imayoshi R, Nagao J, Cho T, Kaminishi H, Ohtono S, Ohno J, Taniguchi K	J Drug Target.	18	7	550-556	2010
機能生物化学 （先端科学研究センター）	Human proteins that specifically bind to 8-oxoguanine-containing RNA and their responses to oxidative stress.	Hayakawa H, Fujikane A, Ito R, Matsumoto M, Nakayama K, Sekiguchi M	Biochem Biophys Res Commun.	403	2	220-224	2010
	Cleavage of Oxidized Guanine Nucleotide and ADP-sugar by Human NUDT5 Protein.	Ito R, Sekiguchi M, Setoyama D, Nakatsu Y, Yamagata Y, Hayakawa H	J Biochem.				2011
歯科医療工学	Fabrication of carbonate apatite block based on internal dissolution-precipitation reaction of dicalcium phosphate and calcium carbonate.	Daitou F, Maruta M, Kawachi G, Tsuru K, Matsuya S, Terada Y, Ishikawa K	Dent Mater J.	29	3	303-308□	2010
	In vitro osteoconductivity evaluation of alumina treated hydrothermally in CaCl2 solution	Almahmood A, Tsuru K, Maruta M, Takeuchi A, Matsuya S, Terada Y, Ishikawa K	Journal of the Ceramic Society of Japan	118	6	512-515□	2010
	Reinforcement of carbonate apatite bone substitutes with carbonate apatite by Ca salt introduction	Matsumoto K, Tsuru K, Kawachi G, Maruta M, Matsuya S, Ishikawa K	Journal of the Ceramic Society of Japan	118	6	521-524	2010
	Tissue-response to calcium-bonded titanium surface.	Zhang L, Ayukawa Y, Racquel Z, LeGeros, Matsuya S, Koyano K, Ishikawa K	J Biomed Mater Res A.	95	1	33-39□	2010
	Zinc phosphate coating on 316L-type stainless steel using hydrothermal treatment	Valanezhad A, Tsuru K, Maruta M, Kawachi G, Matsuya S, Ishikawa K	Surface and Coatings Technology	205	7	2538-2541	2010
	Computational Analysis of Bisphosphonates and Bisphosphonate / Calcium Complexes	Hayakawa T, Furuya N, Yasuoka S, Katoh T, Fukushima T	J Oral Tissue Engin	8	2	107-114	2010
	Fabrication of low-crystalline carbonate apatite foam bone replacement based on phase transformation of calcite foam.	Maruta M, Matsuya S, Nakamura S, Ishikawa K	Dent Mater J.	30	1	14-20	2011
歯科医療工学 （生体構造学） （機能生物化学）	Polycationic protamine for water-insoluble complex formation with DNA.	Fukushima T, Ohno J, Hayakawa T, Imayoshi R, Kawaguchi M, Doi Y, Kanaya K, Mitarai M	Dent Mater J.	29	5	529-535	2010
生体構造学	Subcellular localization of Tektin2 in rat sperm flagellum.	Shimasaki S, Yamamoto E, Murayama E, Kurio H, Kaneko T, Shibata Y, Inai T, Iida H	Zoolog Sci.	27	9	755-761	2010
	The protoplasmic or exoplasmic face association of tight junction particles cannot predict paracellular permeability or heterotypic claudin compatibility.	Inai T, Kamimura T, Hirose E, Iida H, Shibata Y	Eur J Cell Biol.	89	7	547-556	2010
	Characterization of NaV1.6-mediated Na+ currents in smooth muscle cells isolated from mouse vas deferens.	Zhu HL, Shibata A, Inai T, Nomura M, Shibata Y, Brock JA, Teramoto N	J Cell Physiol.	223	1	234-243	2010
	The Effect of Valproic Acid on Mesenchymal Pluripotent Cell Proliferation and Differentiation in Extracellular Matrices	Hatakeyama Y, Hatakeyama J, Takahashi A, Oka K, Tsuruga E, Inai T, Sawa Y	Drug Target Insights	5		1-9	2011
生体構造学	TGF-β mediated FGF10 signaling in cranial neural crest cells controls development of myogenic progenitor cells through tissue–tissue interactions during tongue morphogenesis	Hosokawa R, Oka K, Yamaza T, Iwata J, Urata M, Xu X, Nonaka K, Bringas PJ, Chai Y	Dev Biol.	341	1	186-195	2010
生体構造学 （口腔・顎顔面外科学） （細胞分子生物学）	Specific expression of salivary maxi-K channel variant is augmented in diabetic mice.	Okamura K, Kato K, Uchida R, Ohkubo T, Taniguchi K, Yamazaki J	Arch Oral Biol.	55	11	848-854□	2010
細胞分子生物学	Tarantula toxin ProTx-I differentiates between human T-type voltage-gated Ca2+ Channels Cav3.1 and Cav3.2.	Ohkubo T, Yamazaki J, Kitamura K	J Pharmacol Sci.	112	4	452-458	2010
	Oral epithelial cells are activated via TRP channels.	Wang B, Danjo A, Kajiya H, Okabe K, Kido MA	J Dent Res.	90	2	163-167	2011
	Genetic analysis of DNA repair in the hyperthermophilic archaeon, Thermococcus kodakaraensis	Fujikane R, Ishino S, Ishino Y, Forterre P	Genes Genet Syst.	85	4	243-257□	2010

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
細胞分子生物学 （口腔治療学）	Pro-inflammatory cytokines induce suppressor of cytokine signaling-3 in human periodontal ligament cells.	Fukushima A, Kajiya H, Izumi T, Shigeyama C, Okabe K, Anan H	J Endod.	36	6	1004-1008	2010
細胞分子生物学 （口腔・顎顔面外科学） （福岡医療短期大学）	RANKL-induced TRPV2 expression regulates osteoclastogenesis via calcium oscillations.	Kajiya H, Okamoto F, Nemoto T, Kimachi K, Goto K, Nakayana S, Okabe K	Cell Calcium.	48	5	260-269	2010
先端科学研究センター	Molecular actions of Escherichia coli MutT for control of spontaneous mutagenesis.	Setoyama D, Ito R, Takagi Y, Sekiguchi M	Mutat Res.	707	1	9-14	2011
	Neurite elongation from Drosophila neural BG2-c6 cells stimulated by 20-hydroxyecdysone.	Tominaga M, Nishihara E, Oogami T, Iwasaki M, Takagi Y, Shimohigashi M, Nakagawa H	Neurosci Lett.	482	3	250-254	2010

4.症例報告

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
生体構造学	Solitary neurofibroma of the gingiva with prominent differentiation of Meissner bodies: a case report.	Ohno J, Iwahashi T, Ozasa R, Okamura K, Taniguchi K	Diagn Pathol.	22	5	61	2010

(　)内は共著者の所属講座等

〔福岡医療短期大学〕

1.原著

所属講座	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年
歯科衛生学科	Preparation of rat gingival mitochondria with an improved isolation method.	Kaneko N, Rikimaru T, Fujimura T, Mori S,	Int J Dent.			1-6	2010
歯科衛生学科 （細胞分子生物学） （咬合修復学）	Hyperocclusion Stimulates Osteoclastogenesis via CCL2 Expression.	Goto K, Kajiya H, Nemoto T, Tsutsumi T, Sato H, Okabe K	J Dent Res				2011
歯科衛生学科 （保健福祉学科）	The influence of Japanese-type and Western-type meals in the formation of oral calcium phosphate precipitates	Hidaka S, Oishi A, Kuroki M	Nature and culture		37	1-16	2010

(　)内は共著者の所属講座等

別表５　平成 22 年度地域貢献一覧表

実施事業	内　　容
運動場、テニスコート、体育館の開放	地元ソフトボールチーム、野球チーム、子供ラグビークラブを始め早良区壮年ソフトボール大会等、ほぼ毎週運動場、テニスコート、ラグビー場、体育館等体育施設の地域への開放を行った。
公園清掃	田新町が町内行事として月 1 回実施している田村北公園の清掃に介護老人保健施設等の職員が毎回 3 名参加し、地域との交流を深めるとともに、清掃後、理学療法士等によるリハビリ体操の指導を行った。
管理栄養士の講師派遣	地域の依頼に応じて介護老人保健施設の管理栄養士が栄養指導や講演を行っている。
学園祭での交流	田村校区、四箇田団地の子供会で組織するダンスチーム、保育園で指導している地域の太鼓演奏が学園祭にゲスト出演し、イベント会場を盛り上げた。また地域団体が学園祭バザーに参加した。
福岡医療短期大学教員ボランティア活動	地域交流並びに地域活性化ボランティア活動の取り組みとして、キャンパス内のさくら館において定期的に開催されている地元田新町老人会「親和会」の集いに短大教員並びに専攻科学生が毎月担当を決めて参加し、情報提供を行っている。平成 22 年度は計 12 回参加した。

別表６　平成 22 年度公開講座一覧表

名　称	開催日・会場	テーマ・参加人員
出前講座	平成 22 年 4 月から平成 23 年 3 月まで （市内公民館、小学校等）	市内公民館、小学校などを対象に、本学の教授、准教授等が「歯の話、お口の話、健康の話」をテーマに、29 箇所の出前講義を行った。
平成 22 年度福岡歯科大学臨床セミナー	平成 22 年 4 月から 23 年 1 月まで （福岡歯科大学 本館 6 階 602 講義室他）	医療関係者を対象に通算 24 回実施した。 参加者延べ 1,691 名（臨床研修歯科医を含む）。
福岡歯科大学 公開講座	平成 22 年 9 月 25 日 ～26 日 （よみうりプラザ）	「口腔ケア～お口の手入れが身体を守る～」 1 日目：①「お口の中のバイキンマン」、②「食べる・話す・笑う～生活の質を護る口腔ケア～」、③「高齢者のお口の中は？」 2 日目：①「歯周病はなぜ恐い？～沈黙の刺客、歯周病～」、②「甘くない糖尿病」、③「お口から眼へ！～糖尿病網膜症～」、④「自分でする、みんなとする、口腔ケア」 参加者 179 名 （1 日目：93 名、2 日目 86 名）
第 2 回ふくおか 教育フォーラム	平成 22 年 10 月 8 日 （福岡歯科大学 901 講義室）	基調講演「食と健康」 特別講演「食品摂取の安全確保への取り組み」 参加者 109 名
「健康まるごと福岡歯科学園」	平成 22 年 10 月 23 日 ～24 日 （福岡歯科学園）	1. 講演会「歯科医院で活用できるアロマとイギリスでの医療社会」、「ドライマウス・ドライアイ」 2. 「からだの科学展」 3. 医科ミニ講座・歯科無料相談 4. 介護施設見学・介護無料相談 5. 短大企画「口から始める介護予防」 各イベント参加者合計 1,746 人
福岡西部副都心 E まち歩き	平成 22 年 11 月 6 日 ～7 日 （唐人町商店街）	協賛団体として参加 「お口と体の無料健康相談・血流度ストレス度無料測定」 参加者 226 名
戦略的大学連携支援事業平成 22 年度口腔医学国際シンポジウム	平成 22 年 12 月 4 日 （アクロス福岡国際会議場）	テーマ「Grand Design for Future Dentistry」 6 名の講演後、講演者による討論 参加者 241 名
福岡歯科大学学会総会特別講演	平成 22 年 12 月 12 日 （福岡県歯科医師会館）	・シンポジウム「痛み」 5 名のシンポジストによる講演 参加者 303 名

名　称	開催日・会場	テーマ・参加人員
福岡歯科大学 シンポジウム	平成 22 年 12 月 6 日 （福岡歯科大学 701 講義室）	文部科学省「研究私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、先端科学研究センターとしての今後の研究課題について共同研究を行っている国内外の研究者によるシンポジウムを行った。
平成 22 年度地下鉄七隈線沿線 3 大学合同シンポジウム	平成 23 年 1 月 22 日 （福岡大学病院 福大メディカルホール）	メインテーマ「メタボ・糖尿病の克服に向けて～口腔・栄養・代謝から見た管理・治療戦略～」 第一部講演、第二部公開討論（参加者からの質問に回答する形式）。 本学、福岡大学、中村学園大学合同開催。参加者 230 名
西部地区五大学 連携講演会	平成 23 年 3 月 9 日 （福岡大学 1711 教室）	テーマ「博多の魅力－中世のなごりー」・「地域での大学の役割」 本学、福岡大学、中村学園大学、西南学院大学、九州大学合同開催。 参加者 163 名
大学院特別講義	平成 22 年 4 月 13 日 ～平成 23 年 3 月 18 日 （福岡歯科大学 第 3 会議室他）、全 6 回	上海交通大学、南カリフォルニア大学、ボストン大学、ノースキャロライナ大学等の教授らによる講義が行われた。
福岡医療短期大学 公開講座	平成 22 年 10 月 3 日 （福岡医療短期大学 307 講義室）	テーマ「食べる機能を考えるーおいしく安全な食事を提供するー」 参加者 195 名
福岡医療短期大学 口腔機能向上スキルアップフォーラム第 4 回	平成 22 年 10 月 3 日 （福岡医療短期大学 307 講義室）	テーマ「摂食機能からみた栄養支援」 参加者 132 名
福岡医療短期大学 口腔機能向上スキルアップフォーラム第 5 回	平成 23 年 2 月 20 日 （福岡医療短期大学 307 講義室）	テーマ「口腔ケア教育の展望～時代は他職種連携へ～」 参加者 124 名

別表７　　平成22年度海外研修派遣一覧表

第３種海外研修派遣実績一覧表　　福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先		自	至
生体構造学	助教	岡　暁子	学会	ルッカ	（イタリア）	H22.04.10	H22.04.17
口腔・顎顔面外科学	講師	松永興昌	学会	シュトゥットガルト	（ドイツ）	H22.06.09	H22.06.13
総合医学	助教	中尾新太郎	学会	フォートローダーデイル	（アメリカ）	H22.04.30	H22.05.07
咬合修復学	教授	松浦正朗	学会	抗州	（中国）	H22.06.03	H22.06.06
口腔保健学	教授	埴岡　隆	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
口腔保健学	助教	山本未陶	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.14	H22.07.18
咬合修復学	准教授	清水博史	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
咬合修復学	大学院生	川口智弘	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
咬合修復学	大学院生	吉田兼義	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
咬合修復学	大学院生	入江明仁	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
口腔治療学	助教	茂山千英子	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
総合歯科学	教授	廣藤卓雄	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.11	H22.07.19
総合歯科学	大学院生	桝尾陽介	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.11	H22.07.19
総合歯科学	大学院生	岩元知之	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.11	H22.07.19
生体構造学	教授	沢　禎彦	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.20
咬合修復学	大学院生	吉田兼義	学会	バルセロナ	（スペイン）	H22.07.13	H22.07.19
口腔・顎顔面外科学	講師	松永興昌	学会	ミネソタ	（アメリカ）	H22.08.29	H22.09.05
咬合修復学	准教授	城戸寛史	学会	ハンブルグ・パリ	（ドイツ・フランス）	H22.08.25	H22.08.31
咬合修復学	助教	加倉加恵	学会	ハンブルグ・パリ	（ドイツ・フランス）	H22.08.25	H22.08.31
咬合修復学	大学院生	川口智弘	打合せ	トゥルク	（スペイン）	H22.10.11	H22.10.27
咬合修復学	講師	都築　尊	学会	トロント	（カナダ）	H22.10.14	H22.10.21
総合歯科学	准教授	内藤　徹	学会	キーストーン	（アメリカ）	H22.10.16	H22.10.24
総合歯科学	准教授	米田雅裕	学会	クライストチャーチ	（ニュージーランド）	H22.11.02	H22.11.07
生体構造学	助教	岡　暁子	学会	西帰浦市	（韓国）	H22.10.12	H22.10.15
咬合修復学	教授	髙橋　裕	打合せ	トゥルク	（フィンランド）	H22.10.20	H22.10.27
口腔治療学	教授	坂上竜資	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	准教授	永井　淳	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	助教	井上晴加	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	助教	古賀めぐみ	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	医員	権藤加那子	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	医員	國松聖志	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	医員	藏田和史	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
口腔治療学	大学院生	村上　弘	学会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
細胞分子生物学	教授	岡部幸司	学会	トロント・ロンドン	（カナダ・イギリス）	H22.10.14	H22.10.21
細胞分子生物学	講師	鍛冶屋　浩	学会	トロント	（カナダ）	H22.10.14	H22.10.21
咬合修復学	教授	松浦正朗	講演	瀋陽・北京	（中国）	H22.10.10	H22.10.15
総合医学	教授	大星博明	視察	クリーブランド・ボストン	（アメリカ）	H22.10.21	H22.10.28
総合医学	教授	大星博明	学会	シドニー	（オーストラリア）	H22.11.01	H22.11.08

所　　属	職　名	氏　　名	目 的	派遣先		自	至
機能生物化学	教 授	早 川　　浩	打合せ	抗州	（中国）	H22.10.29	H22.11.01
先端科学研究センター	教 授	関 口 睦 夫	打合せ	抗州	（中国）	H22.10.29	H22.11.03
先端科学研究センター	准教授	髙 木 康 光	打合せ	抗州	（中国）	H22.10.29	H22.11.03
総合歯科学	准教授	米 田 雅 裕	学 会	ソウル	（韓国）	H22.10.23	H22.10.25
診断・全身管理学	教 授	湯 浅 賢 治	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.13	H22.11.16
診断・全身管理学	助 教	白 石 朋 子	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.13	H22.11.16
診断・全身管理学	助 教	香 川 豊 宏	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.13	H22.11.16
診断・全身管理学	診療放射線技師	市 原 隆 洋	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.13	H22.11.16
口腔・顎顔面外科学	助 教	片 山 知 子	学 会	ホノルル	（アメリカ）	H22.10.29	H22.11.04
咬合修復学	教 授	佐 藤 博 信	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.12	H22.11.15
咬合修復学	助 教	森 永 健 三	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.12	H22.11.15
咬合修復学	大学院生	篠 崎 陽 介	学 会	ソウル	（韓国）	H22.11.12	H22.11.15
咬合修復学	大学院生	鴨 川 和 子	学 会	アモイ	（中国）	H22.12.02	H22.12.05
咬合修復学	大学院生	安野　貴美恵	学 会	アモイ	（中国）	H22.12.02	H22.12.05
総合歯科学	准教授	内 藤　　徹	学 会	ドバイ	（ｱﾗﾌﾞ首長国連邦）	H23.01.28	H23.02.06
成長発達歯学	教 授	尾 崎 正 雄	学 会	サンディエゴ・ニューヨーク	（アメリカ）	H23.03.13	H23.03.20
生体構造学	教 授	稲 井 哲一朗	引 率	上海	（中国）	H23.03.13	H23.03.20
咬合修復学	講 師	都 築　　尊	引 率	上海	（中国）	H23.03.13	H23.03.20

㊟第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

第３種海外研修派遣実績一覧表

福岡医療短期大学

所　　属	職　名	氏　　名	目 的	派遣先		自	至
歯科衛生学科	准教授	井 上 勇 介	引 率	ロサンゼルス	（アメリカ）	H22.10.27	H22.11.06
歯科衛生学科	准教授	廣 瀬 武 尚	引 率	釜山	（韓国）	H22.09.16	H22.09.18
歯科衛生学科	准教授	松 尾 忠 行	引 率	釜山	（韓国）	H22.09.16	H22.09.18
歯科衛生学科	講 師	貴 島 聡 子	引 率	釜山	（韓国）	H22.09.16	H22.09.18
歯科衛生学科	准教授	後 藤 加寿子	学 会	トロント	（カナダ）	H22.10.14	H22.10.21

㊟第3種海外研修派遣：1月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表８　　平成２２年度　外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研　　修　　名	主　催	場 所	参加者
企画課	4/16	新・学生募集確保策の発想・工夫と展開	地域科学研究会高等教育情報センター	東京	楢崎
	3/2	大学設置等に関する事務担当者説明会	文部科学省	東京	石橋
総務課	6/15	大学職員に対する人材育成 ～キャリア形成の考え方をベースに～	産業能率大学	東京	田島
	6/17	効率アップ仕事の段取り術	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	麻生
	7/1	私立大学等経常費補助金事務担当者研修会【経験者編】	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	赤坂・和才
	7/2	私立大学等経常費補助金事務担当者研修会【入門者編】	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	田島・柴尾
	7/7	仕事と家庭の両立支援普及促進セミナー	21世紀職業財団	福岡	赤坂
	7/8	ビジネスマンの必須スキル「伝わる話し方」講座	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	石田
	7/14-15	私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	田島
	7/15	人事・同和問題企業事業主研修会	福岡市人権・同和問題企業研修推進会議	福岡	赤坂
	7/23	給与研修会	㈱シティアスコム	福岡	麻生
	7/28	相談窓口担当者実践セミナー	21世紀職業財団	福岡	赤坂
	8/5-6	教育・研修担当者仕事の基本コース	日本経営協会	福岡	田島
	8/26	私学共済事務担当者研修会	日本私立学校振興・共済事業団	大阪	石田
	8/27	給与実務研修（人事院勧告）	文部科学省	東京	赤坂
	9/9	真のアドミニストレーターを目指して	日本私立大学協会九州支部	福岡	田島
	9/15	心とからだの健康セミナー	福岡労働局	福岡	田島
	9/17	科学研究費説明会		熊本	和才・赤坂
	9/29	メンタルヘルスマネジメントセミナー	21世紀職業財団	福岡	赤坂
	9/29-10/1	日本私立大学協会事務局長相当者研修会	日本私立大学協会	静岡	香月
	10/1	職員相談員研修	日本人事行政研究会	東京	赤坂
	10/15	文書ファイリングの実務基本テクニックと鉄則	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	田島
	10/18	防災講習	早良区自衛消防隊連絡協議会	福岡	田島
	10/22	給与実務研修	日本私立学校振興・共済事業団	東京	田島
	1/21	任用実務研修会	日本私立学校振興・共済事業団	東京	赤坂
	2/3-4	「職場」の労務管理必須の法律実務	日本経営協会	福岡	麻生
	2/14	監事・研究費管理ご担当者のための 公的研究費管理・監査セミナー	新日本有限責任監査法人	大阪	和才
財務課	6/18	中堅職員！あなたがやらねば誰がやる	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	箱田
	7/1	私立大学等経常費補助金事務担当者研修会【経験者編】	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	松添・加藤
	7/2	私立大学等経常費補助金事務担当者研修会【入門者編】	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	今林
	10/15	文書ファイリングの実務基本テクニックと鉄則	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	松添
	10/27-29	大学経理部課長担当者研修会	日本私立大学協会	新潟	本山・箱田
	2/15	中堅社員特訓セミナー	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	八尋
施設課	10/6	玄海原子力発電所見学会	九州電力	佐賀	大神
	3/18	北九州市立大学ひびきのキャンパス施設見学	北九州市立大学	福岡	島松
学務課	4/5-6	新入社員合宿研修	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	野方
	4/16	新・学生募集確保策の発想・工夫と展開	地域科学研究会高等教育情報センター	東京	柳
	6/18	中堅職員！あなたがやらねば誰がやる	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	柳
	7/2	私立大学等経常費補助金事務担当者研修会【入門者編】	日本私立学校振興・共済事業団	福岡	松添

所属	受講日	研　　修　　名	主　催	場 所	参加者
学務課	8/17	新入社員フォローアップセミナー	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	野方
	10/6-8	大学教務部課長相当研修会	日本私立大学協会	神戸	灘吉
	10/18	防災講習	早良区自衛消防隊連絡協議会	福岡	柴尾
	10/25	共用試験歯学系OSCE全国説明会	医療系大学間共用試験実施評価機構 □	東京	灘吉
	11/11-12	メンタルヘルス研究協議会	日本学生支援機構	沖縄	野方
	2/15	中堅社員特訓セミナー	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	青木
	2/22	現場を強くするのは係長・主任の仕事だ	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	柴尾
情報図書館課	4/5-6	新入社員合宿研修	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	原田
	6/15	係長・主任者・リーダー能力向上セミナー	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	白水
	6/25	ILLシステム講習会	国立情報学研究所	福岡	豊田
	7/6-9	CCNA実機講習会ブートキャンプ	Ping-ｔ	東京	亀井
	7/14	基礎から学ぶISMS実践トレーニング ～ポリシー、リスク分析、PDCA,認証基準～	富士通ラーニングメディア	大阪	亀井
	8/17	新入社員フォローアップセミナー	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	原田
	8/30-31	図書館員のためのスキルアップセミナー （演習ハイブリッド情報検索）	別府大学	大分	白水
	11/26	九州地区医学図書館員セミナー	九州地区医学図書館協議会	鹿児島	豊田
	12/6-10	無線LAN認証ネットワーク等	NECラーニング	東京	亀井
	2/8	伝わる文章力トレーニング講座	NTTlearning	福岡	原田
病院事務課	5/12	管理職になって伸びる人　終わる人	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	大浦
	10/14-15	附属病院管理運営事務研修会	日本私立歯科大学協会	福島	松村・田村
	2/4-5	私立歯科大学協会「事務長・課長連絡懇談会」	日本私立歯科大学協会	北海道	松村
	2/8	伝わる文章力トレーニング講座	NTTlearning	福岡	石橋
短大事務課	11/12	「報告・連絡・相談」で仕事の質を高める	NCB経営情報ｻｰﾋﾞｽ	福岡	秋吉

別表９　平成22年度学内研修一覧

実施日	研修名	出席者数
4月26日	新採用職員研修	4名
4月27日	課長補佐研修	2名
7月6日-7日	主任・係長研修	24名
8月3日	課長研修	10名
9月3日	補助金関係担当職員研修	33名
10月21日、28日	総務系研修	20名
11月26日	学務系研修	20名
12月20日	若手職員研修	16名

別表１０　平成22年度 戦略的大学連携支援事業
ＦＤワークショップ・ＳＤ研修参加者

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
7/17	戦略的大学連携支援事業 ＦＤワークショップ	北海道医療大学	北海道	小島教授
7/17	戦略的大学連携支援事業 ＦＤワークショップ	北海道医療大学	北海道	内藤准教授
11/13	戦略的大学連携支援事業 ＦＤワークショップ	鶴見大学	神奈川	敦賀准教授
11/13	戦略的大学連携支援事業 ＦＤワークショップ	鶴見大学	神奈川	萩家講師
10/8	戦略的大学連携支援事業短期研修	福岡大学	福岡	大星教授
10/27	戦略的大学連携支援事業短期研修	神奈川歯科大学	神奈川	向野助教
12/8	戦略的大学連携支援事業短期研修	福岡大学	福岡	小島教授
12/17	戦略的大学連携支援事業短期研修	昭和大学	東京都	米田准教授
2/10	戦略的大学連携支援事業短期研修	福岡大学	福岡	柳田講師
2/16	戦略的大学連携支援事業短期研修	福岡大学	福岡	池邉教授
7/2・3	戦略的大学連携支援事業ＳＤ研修	北海道医療大学	北海道	藤木課長補佐
7/2・3	戦略的大学連携支援事業ＳＤ研修	北海道医療大学	北海道	白石主任
7/20-22	戦略的大学連携支援事業短期研修	鶴見大学	神奈川	大浦課長補佐
7/28-30	戦略的大学連携支援事業短期研修	神奈川歯科大学	神奈川	和才係長
11/19～20	戦略的大学連携支援事業ＳＤ研修	鶴見大学	神奈川	柴尾主任
11/19～20	戦略的大学連携支援事業ＳＤ研修	鶴見大学	神奈川	宗　主任

別表１１　平成22年度 西部地区五大学連携懇話会
研修参加者

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
5/27	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	田島主任
5/27	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	今林主任
5/27	ファシリテーション基礎研修	九州大学	福岡	白石主任
9/10	接遇研修	中村学園大学	福岡	上月係員
9/10	接遇研修	中村学園大学	福岡	原田係員
9/10	接遇研修	中村学園大学	福岡	石橋係員

別表１２　　資金収支総括表

（単位：千円）

科目		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	3,736,272	3,607,370	3,574,023	3,562,538	3,419,725
	手数料収入	33,032	28,836	22,885	21,209	21,939
	寄附金収入	32,050	27,510	22,873	23,324	27,137
	補助金収入	667,426	505,260	517,193	1,220,852	597,966
	資産運用収入	769,747	840,554	831,003	902,590	784,801
	資産売却収入	0	121,459	523,150	537,770	1,532,840
	事業収入	1,600,062	1,698,451	1,711,305	1,755,489	1,859,453
	雑収入	242,213	182,637	151,334	272,742	241,852
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	809,855	772,975	771,411	695,539	733,193
	その他の収入	5,786,081	2,335,922	730,415	8,960,965	4,983,108
	資金収入調整勘定	△ 1,463,154	△ 1,235,117	△ 1,084,721	△ 1,934,052	△ 1,239,655
	小計	12,213,584	8,885,857	7,770,871	16,018,966	12,962,359
	前年度繰越支払資金	2,107,356	1,732,395	1,464,297	942,636	1,254,015
	合計	14,320,940	10,618,252	9,235,168	16,961,602	14,216,374
支出の部	人件費支出	3,467,840	3,453,389	3,462,344	3,548,121	3,576,403
	教育研究経費支出	1,125,224	1,376,225	1,182,347	1,385,720	1,241,883
	管理経費支出	217,261	218,215	222,030	218,168	208,471
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	39,360	37,046	344,049	965,748	125,645
	設備関係支出	486,107	146,440	204,787	519,979	264,090
	資産運用支出	7,308,237	3,713,746	2,843,919	9,722,997	7,521,713
	その他の支出	539,400	607,144	426,273	406,757	1,071,943
	資金支出調整勘定	△ 594,884	△ 398,250	△ 393,217	△ 1,059,903	△ 606,231
	小計	12,588,545	9,153,955	8,292,532	15,707,587	13,403,917
	次年度繰越支払資金	1,732,395	1,464,297	942,636	1,254,015	812,457
	合計	14,320,940	10,618,252	9,235,168	16,961,602	14,216,374

別表１３　　消費収支総括表

（単位：千円）

科目			18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
消費収入の部	帰属収入	学生生徒等納付金（ア）	3,736,272	3,607,370	3,574,023	3,562,538	3,419,725
		手数料	33,032	28,836	22,885	21,209	21,939
		寄附金（イ）	52,460	46,588	47,616	35,374	41,623
		補助金（ウ）	667,426	505,260	517,193	1,220,852	597,966
		資産運用収入	769,747	840,554	831,003	902,590	784,801
		資産売却差額（エ）	0	0	0	0	0
		うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
		事業収入	1,600,062	1,698,451	1,711,305	1,755,489	1,859,453
		雑収入	242,890	182,636	151,334	272,742	241,852
		合計（オ）	7,101,889	6,909,695	6,855,359	7,770,794	6,967,359
	基本金組入額（カ）		△ 1,411,715	△ 1,993,206	△ 1,470,377	△ 1,621,505	△ 2,659,119
		（第１号基本金組入額）	△ 14,805	△ 72,126	△ 347,227	△ 483,885	△ 531,889
		（第２号基本金組入額）	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000	△ 600,000
		（第３号基本金組入額）	△ 796,910	△ 1,321,080	△ 523,150	△ 537,620	△ 1,527,230
		（第４号基本金組入額）	0	0	0	0	0
	消費収入（オ－カ）（キ）		5,690,174	4,916,489	5,384,982	6,149,289	4,308,240
消費支出の部	人件費（ク）		3,333,013	3,582,581	3,382,947	3,400,470	3,409,596
	教育研究経費（ケ）		1,605,584	1,861,818	1,639,090	1,828,245	1,736,022
		うち、減価償却	482,334	481,154	456,535	442,618	498,174
	管理経費（コ）		249,201	260,428	250,208	239,164	237,577
		うち、減価償却	32,113	30,900	28,581	20,205	28,653
	借入金等利息（サ）		0	0	0	0	0
	資産処分差額（シ）		19,650	22,521	9,442	62,843	36,906
		うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
		うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
	徴収不能引当金繰入額（又は徴収不能額）（ス）		1,746	0	731	60	4,054
	消費支出合計（セ）		5,209,194	5,727,347	5,282,417	5,530,782	5,424,155
当年度消費収入超過額（キ－セ）（又は△当年度消費支出超過額）			480,980	△ 810,858	102,565	618,507	△ 1,115,915
前年度繰越消費収入超過額（又は△前年度繰越消費支出超過額）			4,179,556	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666
（何）　年度消費支出準備金繰入額			0	0	0	0	0
（何）　年度消費支出準備金取崩額			0	0	0	0	0
基本金取崩額			13,875	22,590	143,216	27,235	289
翌年度繰越消費収入超過額（又は△翌年度繰越消費支出超過額）			4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040
帰属収支差額（オ）－（セ）			1,892,695	1,182,348	1,572,942	2,240,012	1,543,204

別表１４　　貸借対照表

（単位：千円）

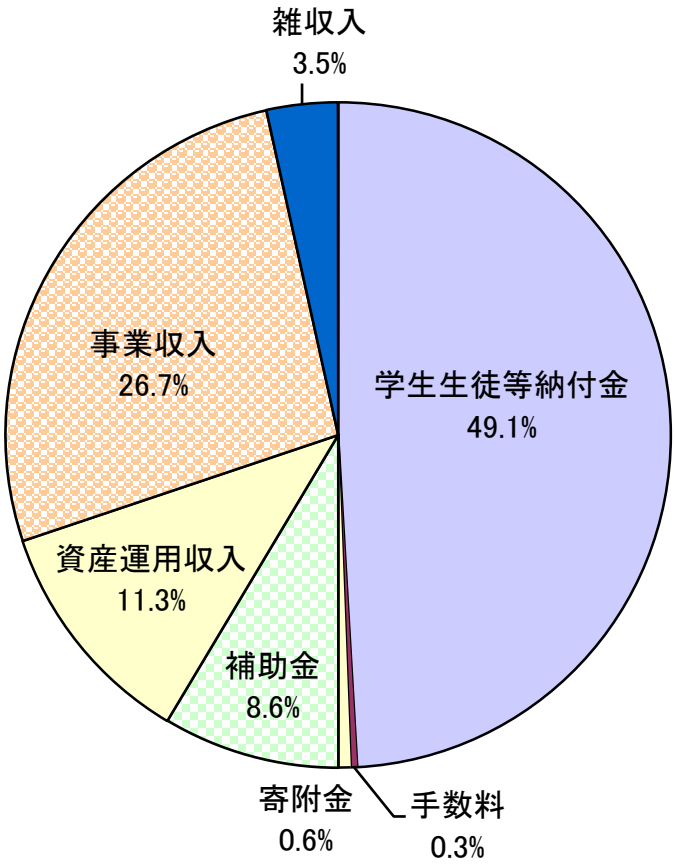
資産の部						負債・基本金及び消費収支差額の部					
科目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	科目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
固定資産（a）	48,117,492	49,666,351	51,568,325	53,305,719	55,335,068	負債（e）	3,916,337	3,806,792	3,697,601	4,180,200	3,584,759
有形固定資産	10,738,778	10,395,566	10,474,492	11,431,306	11,266,188	固定負債（f）	2,325,408	2,454,600	2,375,203	2,250,043	2,097,127
うち、土地	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	2,853,955	うち、長期借入金	0	0	0	0	0
うち、建物	4,582,714	4,394,721	4,267,053	5,238,794	5,100,576	うち、学校債	0	0	0	0	0
うち、構築物	257,714	240,390	223,298	209,738	196,521	うち、退職給与引当金	2,322,877	2,452,069	2,372,672	2,225,021	2,058,214
うち、教育研究用機器備品	1,608,269	1,431,276	1,352,565	1,581,296	1,535,472	流動負債（g）	1,590,929	1,352,192	1,322,398	1,930,157	1,487,632
その他の固定資産（l）	37,378,714	39,270,785	41,093,833	41,874,413	44,068,880	うち、短期借入金	0	0	0	0	0
うち、収益事業元入金	0	0	0	0	0	うち、前受金（h）	809,855	772,975	771,411	712,739	746,094
うち、減価償却引当特定資産	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	8,946,000	基本金（i）	41,949,358	43,919,974	45,247,134	46,841,403	49,500,234
流動資産（b）	2,422,614	1,946,558	1,508,334	2,493,550	1,411,965	ア第１号基本金	20,611,468	20,661,004	20,865,014	21,321,663	21,853,264
うち、現金・預金（c）	1,732,395	1,464,298	942,636	1,254,015	812,457	イ第２号基本金	6,400,000	7,000,000	7,600,000	8,200,000	8,800,000
うち、有価証券	0	0	198,680	0	0	ウ第３号基本金	14,517,890	15,838,970	16,362,120	16,899,740	18,426,970
その他	690,219	482,260	367,018	1,239,535	599,508	エ第４号基本金	420,000	420,000	420,000	420,000	420,000
						消費収支差額（j）	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040
						（何）年度消費支出準備金	0	0	0	0	0
						翌年度繰越消費収入超過額又は△翌年度繰越消費支出超過額	4,674,411	3,886,143	4,131,924	4,777,666	3,662,040
合計（d）	50,540,106	51,612,909	53,076,659	55,799,269	56,747,033	合計（e）＋（i）＋（j）	50,540,106	51,612,909	53,076,659	55,799,269	56,747,033
						減価償却額の累積額の合計額	10,050,531	10,382,773	10,512,547	10,465,871	10,738,993
						基本金未組入額（k）	83,419	22,913	27,602	496,380	78,378

別表１５　　財務比率表

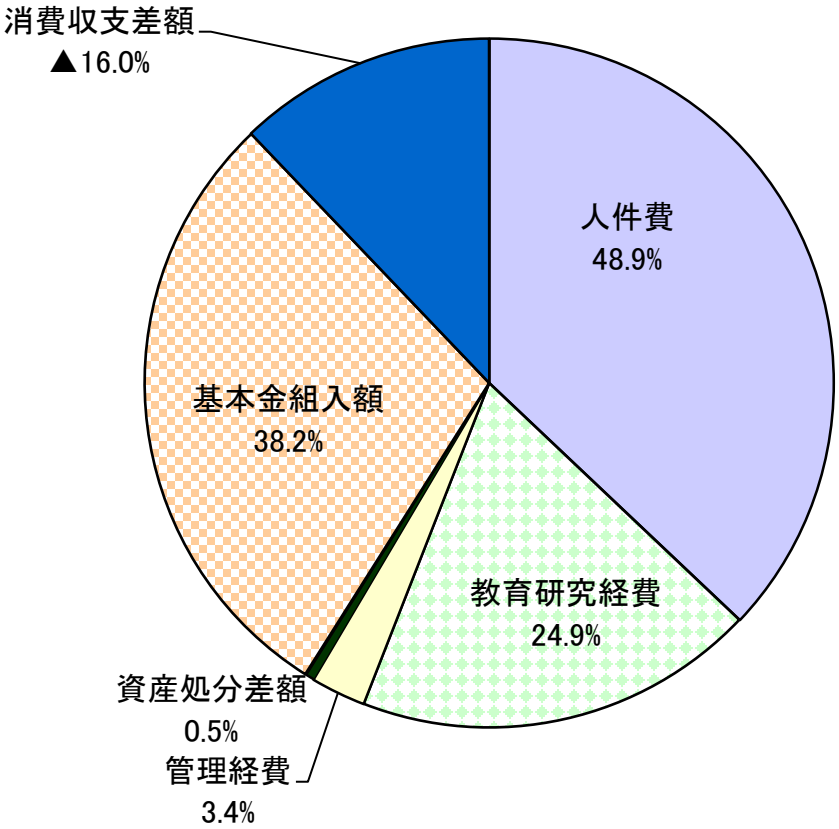
分類	比率	算式（×100）	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
貸借対照表	消費収支差額構成比率	消費収支差額 / 総資金 (j) / (e)＋(i)＋(j)	9.2%	7.5%	7.8%	8.6%	6.5%
	基本金比率	基本金 / 基本金要組入額 (i) / (i)＋(k)	99.8%	99.9%	99.9%	99.0%	99.8%
	固定比率	固定資産 / 自己資金 (a) / (i)＋(j)	103.2%	103.9%	104.4%	103.3%	104.1%
	その他の固定資産構成比率	その他の固定資産 / 総資産 (l) / (d)	74.0%	76.1%	77.4%	75.0%	77.7%
	流動比率	流動資産 / 流動負債 (b) / (g)	152.3%	144.0%	114.1%	129.2%	94.9%
	前受金保有率	現金預金 / 前受金 (c) / (h)	213.9%	189.4%	122.2%	175.9%	108.9%
	総負債比率	総負債 / 総資産 (e) / (d)	7.7%	7.4%	7.0%	7.5%	6.3%
	負債率	総負債 / 自己資金 (e) / (i)＋(j)	8.4%	8.0%	7.5%	8.1%	6.7%
	基本金実質組入率	自己資金 / 基本金要組入額 (i)＋(j) / (i)＋(k)	110.9%	108.8%	109.1%	109.0%	107.2%
消費収支計算書	人件費比率	人件費 / 帰属収入 (ク) / (オ)	46.9%	51.8%	49.3%	43.8%	48.9%
	教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入 (ケ) / (オ)	22.6%	26.9%	23.9%	23.5%	24.9%
	管理経費比率	管理経費 / 帰属収入 (コ) / (オ)	3.5%	3.8%	3.6%	3.1%	3.4%
	消費支出比率	消費支出 / 帰属収入 (セ) / (オ)	73.3%	82.9%	77.1%	71.2%	77.9%
	【経常経費依存率】	消費支出 / 学生生徒等納付金 (セ) / (ア)	139.4%	158.8%	147.8%	155.2%	158.6%
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 帰属収入 (ア) / (オ)	52.6%	52.2%	52.1%	45.8%	49.1%
	寄附金比率	寄附金 / 帰属収入 (イ) / (オ)	0.7%	0.7%	0.7%	0.5%	0.6%
	補助金比率	補助金 / 帰属収入 (ウ) / (オ)	9.4%	7.3%	7.5%	15.7%	8.6%
	基本金組入率	基本金組入額 / 帰属収入 (カ) / (オ)	19.9%	28.8%	21.4%	20.9%	38.2%

別表１６

22年度帰属収入構成比率

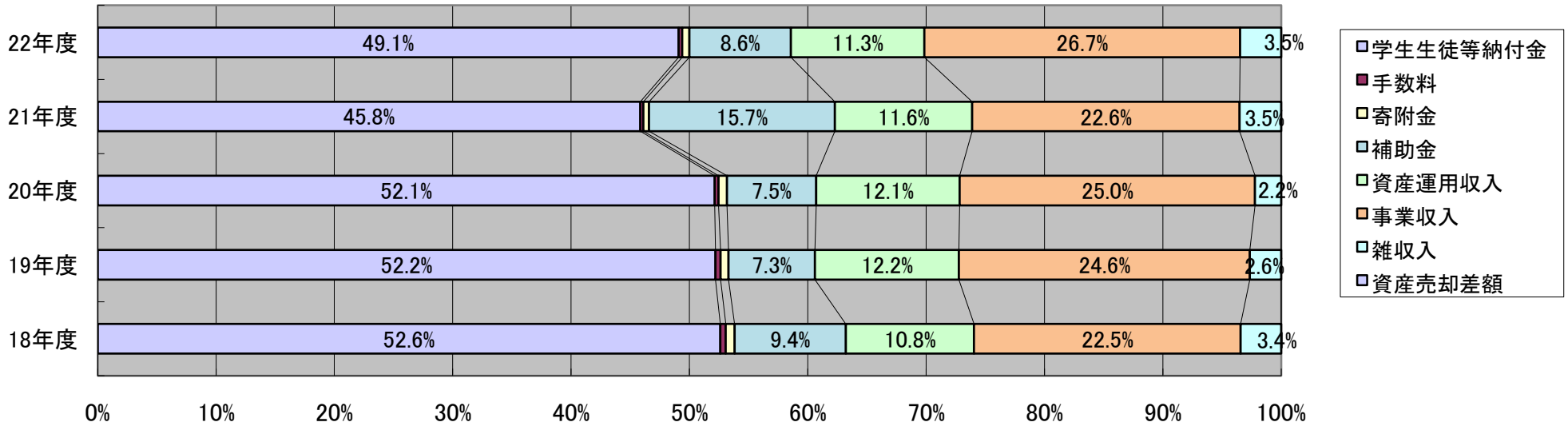
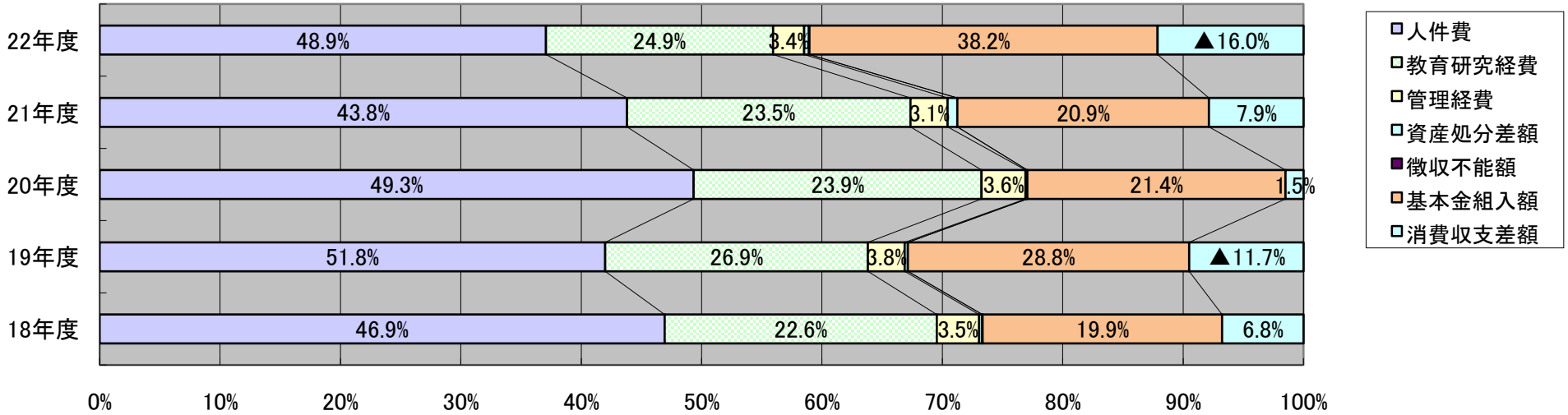


22年度消費支出他構成比率
（帰属収入に対する割合）



別表１７

帰属収入科目構成比率年度別推移



消費支出科目等の帰属収入割合年度別推移